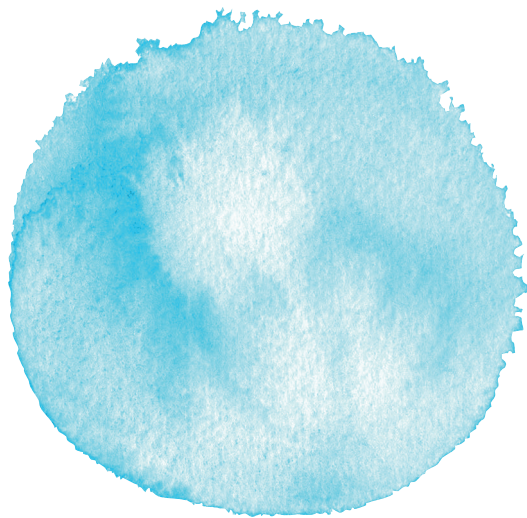




山口大学
共育ワークショップの軌跡
2013～2020



【目次】

はしがき

共育ワークショップ2013 「みんなで山大の教育（共育）について語ろう！」	1
共育ワークショップ2014 「みんなで山大の教育（共育）について語ろう！」	11
共育ワークショップ2015 「みんなで山大の教育（共育）について語ろう！」	19
共育ワークショップ2016 「みんなで山大の教育（共育）について語ろう！」	25
共育ワークショップ2018 「みんなで山大の教育（共育）について語ろう！ ～大学と高等学校による授業協奏曲～」	33
共育ワークショップ2019 「多様化社会において必要とされるコンピテンシーとは ～高大接続・社会接続の観点から～」	41
共育ワークショップ2020（※YU-AP第16回アドバイス会議として代替開催） 「直接評価×間接評価のチャレンジ ～どうすれば、学生の自己評価能力が高まるか～」	49

はしがき

「山口大学 共育ワークショップ」は、2013年9月に第1回を開催して以降、毎年度テーマを変えながら開催し、7年の月日が経ちました。

山口大学の教育理念の一つである「共育（共に育む）」の場づくりを目指し、教員・職員・学生が一緒になって、大学教育のあり方について考え、学び合うことの大切さを自覚することを意図して、共育ワークショップはその産声を上げました。この取組は、山口大学が2015年度に受審した機関別認証評価において主な優れた点に取り上げられ、高い評価を受けるに至りました。さらには、2014年度に採択を受けた文部科学省・大学教育再生加速プログラム（AP）では、教職学協働の取組の一つとして重要な役割を果たし、中間評価での「S評価」に大きく貢献しました。

今回、一つの区切りを迎えるにあたり、共育ワークショップの7年間の軌跡を一冊にまとめ、刊行することといたしました。ご閲覧いただけたら幸いです。

2020年3月

山口大学 大学教育機構

大学教育センターYU-AP推進室

山口大学 共育ワークショップ 2013 「みんなで山大的教育（共育）について語ろう！」

●コンセプト

山口大学の教育（共育）について、教員、職員、学生（TA・SA を含む）が一緒になり、様々な観点から語り合い、考えてみよう。

大学というコミュニティでは、本来、教員、職員、学生が等しく市民権を有していると考えられるべきではないでしょうか。教員が学生を教えるという場面もあれば、教員が学生から教えられる場面があるというのが大学というコミュニティの醍醐味でしょう。大学教育とは、教員、職員、学生が共に創り上げるもの（共創）であり、かつ、共に育み合うもの（共育）です。

●アプローチ

本年4月に始まった新しい共通教育では、「主体的な学び」「グローバル人材（山口と世界）」「キャリア教育」が重要なキーワードとなっています。知識創造の技法を使ったグループワークを通し、「今、求められる人材像」について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。所属や立場を超えた参加者同士の対話を通して「今、求められる人材像」を育成するため（になるため）のアクション・プランを考えてみます。教員、職員、学生の共創を通して、山大的教育（共育）をより豊かなものにしていきましょう。

●開催日時

9月24日（火） 14:00～17:30

※ワークショップの詳細は裏面参照

（終了後に情報交換会（懇親会）を行います）

●場 所

第二学生食堂「きらら」

●対象及び定員規模

本学の教員、職員、学生（TA・SA を含む） 60 名程度



●内容構成

14:00～14:15 開会挨拶・趣旨説明

14:15～14:20 オリエンテーション

14:20～15:30 グループワーク(第1クール)

教員、職員、学生(TA・SAを含む)ごとのグループワーク
【自己紹介、同じ属性同士での価値観や実践の共有】

[15:30～15:40 休憩]

15:40～16:50 グループワーク(第2クール)

教員、職員、学生(TA・SAを含む)の混合によるグループワーク
【異なる属性の価値観や実践を参照しながら集合知へと展開】

16:50～17:25 全体討議・総括

17:25～17:30 閉会挨拶

[17:40～19:00 情報交換会(懇親会) ※会費:教職員2,000円、学生(TA・SAを含む)500円]

【申込方法】

申込は、件名「**共育ワークショップ申込**」とし、「**①氏名、②所属・職名(学生の場合は学年)、③e-mail、④情報交換会(懇親会)参加希望の有無**」を記入の上、E-mail: ga115@yamaguchi-u.ac.jp (担当:教育支援課教育企画係)あてに送信願います(なお、情報交換会(懇親会)参加希望の方は、当日受付にて会費を徴収いたします)。

【申込締切】

8月9日(金)までとします。ただし、定員となり次第、申込を締め切らせていただきます。

【問合せ先】

大学教育機構 大学教育センター准教授 林 透

E-mail: toru-h@yamaguchi-u.ac.jp TEL:5067(内線)



山口大・創基 200 周年記念 共育ワークショップ 2013 『みんなで山大の教育(共育)について語ろう!』開催報告

日 時 : 9月24日(火) 14:00~17:30

場 所 : 吉田キャンパス・第二学生食堂「きらら」

参加者 : 教員 16名、職員 19名、学生 40名、その他 4名 計 79名

概 要 :

- 14 : 00~14 : 15 開会挨拶 丸本卓哉 学長
趣旨説明 糸長雅弘 大学教育機構・大学教育センター長
- 14 : 15~14 : 20 オリエンテーション
林 透 大学教育機構・大学教育センター准教授
河島広幸 北陸先端大・知識科学研究科 M2
守本 瞬 金沢大学・情報部係長
- 14 : 20~15 : 30 グループワーク (第1クール)
教員、職員、学生 (TA・SAを含む) ごとのグループワーク
- [15 : 30~15 : 40 休 憩]
- 15 : 40~16 : 50 グループワーク (第2クール)
教員、職員、学生 (TA・SAを含む) の混合によるグループワーク
- 16 : 50~17 : 25 全体討議・総括
林 透 大学教育機構・大学教育センター准教授
- 17 : 25~17 : 30 閉会挨拶 瀬瀬 厚 副学長・理事

内 容 :

共育ワークショップ 2013「みんなで山大の教育(共育)について語ろう!」は、山口大学創基 200 周年記念として新たに企画された参加型ワークショップである。山口大学の教育理念の一つである共育(共にはぐくむ)の場を創出し、教員・職員・学生が共に、大学教育のあり方を考え、学び合うことの大切さを自覚することを意図したものであった。

冒頭、丸本卓哉学長より開会挨拶があり、「共育」の理念を体現化する本ワークショップの重要性について説明があった。また、糸長雅弘 大学教育機構大学教育センター長より趣旨説明があり、廣中平祐 元学長が中心にまとめられた、いわゆる「廣中レポート」(2000年6月)を基点とした学生参画型FDの全国的な動きに言及し、本ワークショップのねらいについて説明があった。

今回のワークショップでは、知識創造の技法を使ったグループワークを通して、「今、求められる人材像」の再確認を行い、所属や立場の違いを超えた参加者同士の対話により「今、求められる人材像」を育成するためのアクションプランの設計を目指した。具体的には、教員・職員・学生の属性ごとのグループ編成による第1クール及び教員・職員・学生混合による第2クールの2段階で行われた。参加者は、自らが考える「今、求められる人材像」について紹介し、グループメンバーと対話しながら、共通点や相違点を気付き合うとともに、その必要性や具体的な方策へと議論を深めた。



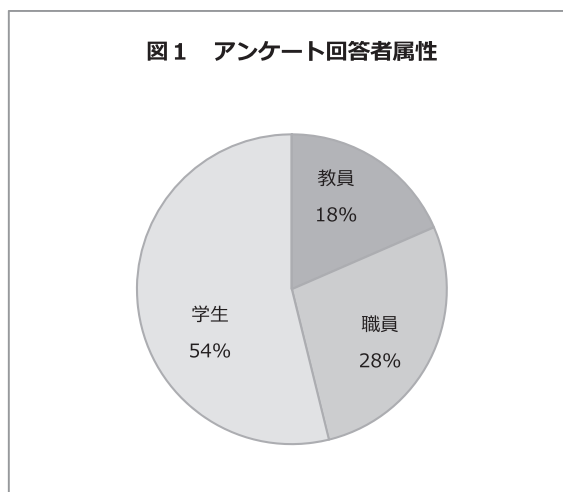
後半の全体発表では、林 透 大学教育機構大学教育センター准教授の進行により、グループ発表が行われ、会場は熱気に包まれた。学生が前向きに発表する姿が印象的であり、「自分の考えをしっかりと持つことができる人材」や「様々な人間関係の中で新しい価値を創造できる人材」などの意見が多かった（詳細は、別表の発表概要一覧を参照）。



最後に、瀬瀬理事・副学長より閉会挨拶があり、本学の教育・学修の方向性に新たな契機を与える機会となった。

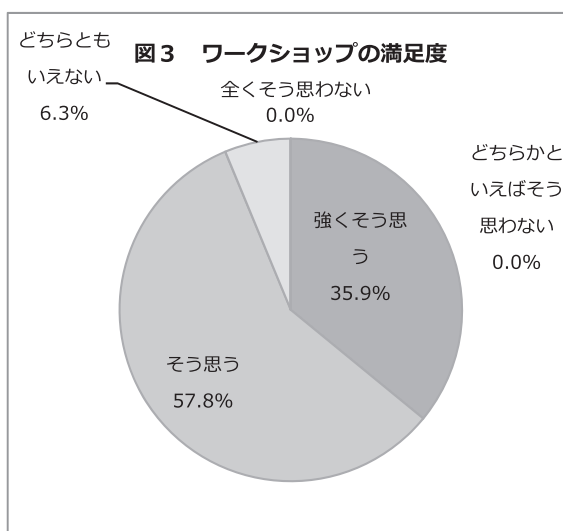
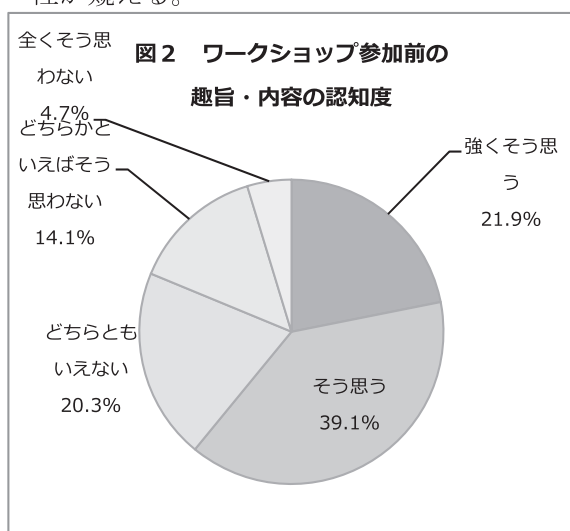
アンケート結果：

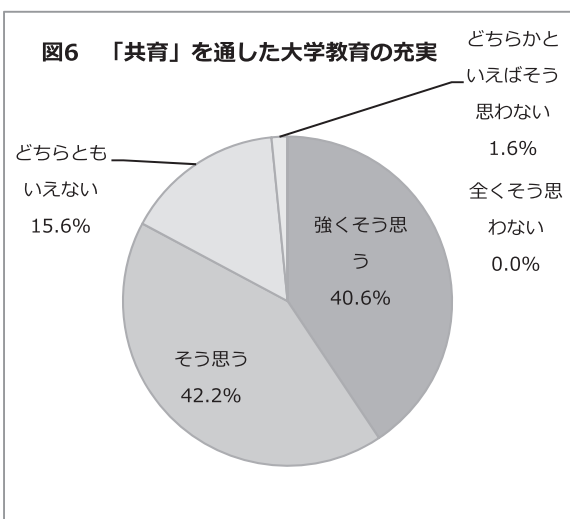
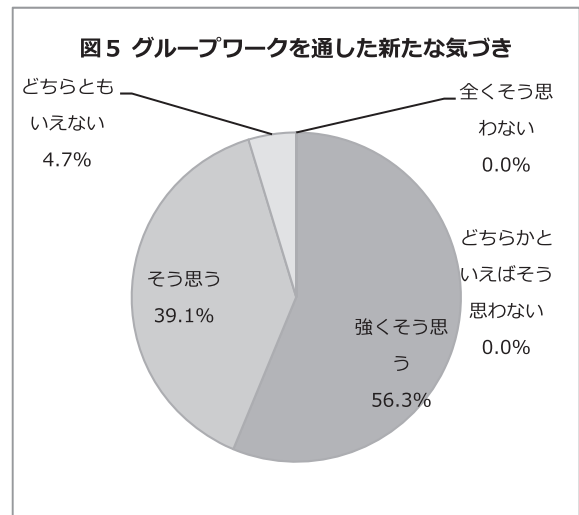
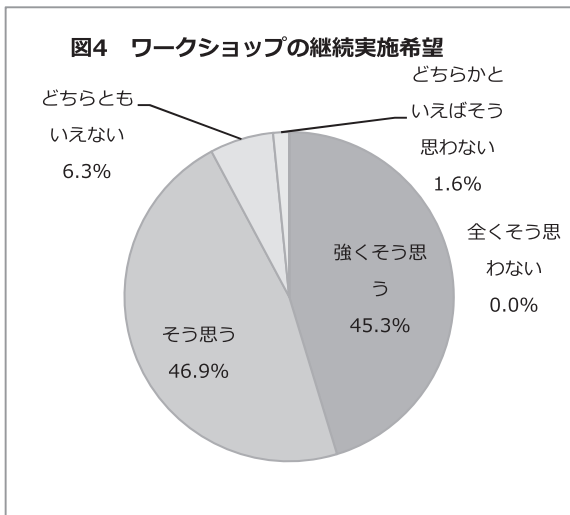
ワークショップ参加者によるアンケートについて、65名（回収率 86.6%（その他を除く））から回答を得た（図1）。今回のワークショップ自体が初めての企画実施であったため、「ワークショップの趣旨や内容についてある程度知った上で参加したか」という設問では、4割近くの参加者が十分に趣旨や内容を把握していない状況があった（図2）。しかしながら、実際に参加した上での理解度、満足度については、「強くそう思う・そう思う」が9割を超え（図3）、今後も継続していくべきであるという意見が同じく9割を超えた（図4）。



グループワークそのものに関連して、「グループワークを通して新しい気づきがあったか」という設問では、ほぼ全員の参加者が新しい気づきを感じており（図5）、ワークショップ自体のコンセプトである、「共育を通して大学教育がより良くなると思うか」とい設問でも8割以上の賛同が得られた（図6）。

以上のようなアンケート結果から、教職学協働実践としての共育ワークショップの有効性が窺える。





まとめ：

山口大学憲章が掲げる「発見し、はぐぐみ、形にする 知の広場」という理念について、山口大学を構成する教員・職員・学生が理解を深め、共有することが求められている。複雑化する社会情勢において、多様な組織構成員が意見や意識を交流し合いながら、課題解決する仕組み（ホールシステム・アプローチ）が大切になってきている。今まさに、山大スピリットをみんなで共有することに努め、山大の組織力の向上、引いては、山大の教育力の向上を図る必要がある。そのため、教員・職員・学生が一緒になって議論する場、協働する場の創出が必要であり、「共育ワークショップ」がその一端を担うことを考えたい。

今回のワークショップで出されたアイデアを踏まえながら、今後の山大の教育構成・方法や学修方法の充実、在学生の学修意識の把握に関する検討を進めたい。



共育ワークショップ2013 グループワーク（第2クール）発表概要一覧

グループ名・リーダー	テーマ、WHY（なぜ）、HOW（どのように）
<p>A グループ「ハハカ」 リーダー：経済学部2年 古賀ゆめこ</p>	<p>テーマ（「〇〇」できる人材としてグループでまとめたテーマ）： <u>「様々な人間関係の中で学ぶ姿勢をもち、新たな価値を創造できる人」</u></p> <p>WHY（なぜ「〇〇できる」ことが必要なのか？）： ●様々な人間関係の中でこそ、人は成長し、楽しみを見出すことができるから。</p> <p>HOW（どのようにすれば、「〇〇できる」ようになれるのか？）： ●自分に自信を持つ。 ●相手を受け入れる。 ●信頼される。 ●自己表現。 ●コミュニケーション能力をもつ。</p>
<p>B グループ「C in B」 リーダー：理学部4年 岩崎政祝</p>	<p>テーマ：<u>「グローバルな視点をもったコミュニケーションができる」</u></p> <p>WHY： ●外国語でコミュニケーションをとる能力はグローバル化するこれからの時代に間違いなく必要となる ●グローバルな視点から多様な価値観を持っている人々とのコミュニケーションが大切だから。 ●自分の意見を伝えること＝コミュニケーション能力</p> <p>HOW： ●外国人と英語を通して相互の文化を理解する。 ●人との交流を多く持ち、関わりを大切にする。</p>
<p>C グループ「ヤマミィに一票を！」 リーダー：経済学部1年 奥田真也</p>	<p>テーマ：<u>「自分で考え行動できる」</u></p> <p>WHY： ●自分の人生に責任を取るため。 ●良い人材モデルを残していくため。 ●自己発見・他者理解 ●創造力を養うため。</p> <p>HOW： ●興味を持ったことに取り組む。 ●考える「もと」となる知識を収集する。 ●自分の中で物事の真偽を議論する。 ●他人とディスカッションしていくこと。</p>

<p>D グループ「どうしますか、リーダー」 リーダー：工学部1年 尾野慈厚</p>	<p>テーマ：<u>「自分の考えを持ち、自信を持って行動する」</u></p> <p>WHY：</p> <ul style="list-style-type: none"> ●他人から得る。 ●自分が得る。 ●自己アピール ●リーダーシップ <p>HOW:</p> <ul style="list-style-type: none"> ●多くのことにチャレンジ ●人とのつながりを大事にする。 ●自己分析をする。 ●信頼につながる。
<p>E+K 混合グループ「3+2+1=100」 リーダー：理学部1年 飯富和明</p>	<p>テーマ：<u>「芯が強くて、他人を思いやり、前に進むことができる」</u></p> <p>WHY：</p> <ul style="list-style-type: none"> ●マナーを打破して改革を生むため。 ●1+1=10 (一つ一つの力が合わさることで、10倍の力になる) <p>HOW：</p> <ul style="list-style-type: none"> ●現在の自分を知る。 ●グループワーク、集団行動をたくさん経験する。 ●他人の意見を批判する練習をする。
<p>F グループ「チーム F」 リーダー：理学部3年 鯉谷 優</p>	<p>テーマ：<u>「多角的に物事を見ることができる」</u></p> <p>WHY：</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新たな発見につなげることができる。 ●相手を思いやることができる。 ●求められることを実行できるかの確認・修正のため。 ●メリット・デメリットを考えるため。 ●効率的な解決方法が見えてくる、真実が見えてくる。 <p>HOW：</p> <ul style="list-style-type: none"> ●物事の基本を理解する。 ●ロールプレイを行う。 ●人の意見を聞く。 ●本を読む。 ●振り返りを行い、次の行動の改善点を見つける。
<p>G グループ「スナイプ」 リーダー：農学部2年 山田美里</p>	<p>テーマ：<u>「色んな引き出しを持ちつつ、柔軟に対応できる」</u></p> <p>WHY：</p> <ul style="list-style-type: none"> ●想定 (どんなことにも対応が可能、リスクマネジメント) ●成長 (振り返りによる成長、自己の確立) ●協調 (様々な人とコミュニケーションがとりやすくなる、平和)

	<p>HOW :</p> <ul style="list-style-type: none"> ●インプット (情報収集 (蓄積)) ●プロセス (学修 (理解)) ●アウトプット (新しい発見)
<p>H グループ「少年 H」 リーダー：工学部 4 年 田所良太</p>	<p>テーマ：「<u>アクティブリーダー、学び続けること</u>」</p> <p>WHY :</p> <ul style="list-style-type: none"> ●頼りになる。 ●誠意 ●柔軟な考え <p>HOW :</p> <ul style="list-style-type: none"> ●インプットしたものをアウトプットしていく。アウトプットを意識して学ぶ。 ●アンテナを立てる。 ●自分で考え、自分で行動！！ ●なりたい自分を描く。 ●すぐに答えを求めない。
<p>I グループ「I (私) を持つのは E ね！」 リーダー：人文学部 2 年 堀江梨里</p>	<p>テーマ：「<u>自分自身の考えを持つことができる</u>」</p> <p>WHY :</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自信をもって行動できる。 ●自分を表現できるため。 ●周りからの情報に流されない。 <p>HOW :</p> <ul style="list-style-type: none"> ●様々な分野の知識を吸収する。 ●一つのことが本当に正しいかどうかを常に考える。 ●責任感をもって物事に取り組む。
<p>J グループ「Team Active」 リーダー：経済学部 2 年 田邊咲良</p>	<p>テーマ：「<u>自分と違う意見を受け入れ、積極的に取り組み、人と人をつなぐことができる人材</u>」</p> <p>WHY :</p> <ul style="list-style-type: none"> ●視野を広げることで成長し続けることができるから。 ●人とのつながりでしか、人間関係はつくれないから。 ●新しい価値観に出会うことができるから。 <p>HOW :</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歴史や外国のことなどを学び、それを積極的にアウトプットし合う。 ●自ら学ぼうという気持ちを持つ。 ●信頼される人になる、相手を信頼する。 ●他者の意見を尊重する。

Lグループ「新鮮組」
リーダー：人文学部1年 上原瑞希

テーマ：「新しい発見をもとめて、積極的に行動できる」

WHY：

- 腐らない、腐らせない。楽しいから。
- 多様な世界を知ることができるから。
- 自分自身を変化させることができるから。

HOW：

- あいさつ、お礼を言う。
- 笑顔を心掛ける。
- 心が健康であること。
- 趣味に没頭する時間をつくる。

Mグループ「まやみい」
リーダー：人文科学研究科2年 大草祥史

テーマ：「わかった気にならないことができる」

WHY：

- 困難に立ちむかうことができる。
- 分かったと思うと、成長が止まるのでは・・・。

HOW：

- 周囲の雰囲気になんか流されず、必要な批判ができる。
- 自分は分かっているのか、と自分自身を疑う。
- 少し時間を置いて、振り返ってみる。

(参考) 『文教ニュース 10月7日号』掲載 (※『文教速報 10月17日号』に同様掲載)

49 第2260号 (第三種郵便物認可) 文 教 ニ ュ ー ス 平成25年10月7日 (月曜日)



参加型ワークショップで議論を深めた



開会挨拶する丸本学長

◆山口大・創基200周年記念◆共育ワークショップ2013
「みんなで山大的教育(共育)について語ろう！」
共育ワークショップ2013「みんなで山大的教育(共育)について語ろう！」は9月24日、山口大学吉田キャンパスにて、同大学の教員・職員・学生総勢80名近くが参加して開催された。山口大学創基200周年記念として開催されたこのイベントは、同大学として新たに企画された参加型ワークショップ。山口大学の教育理念の一つである共育(共にはぐくむ)の場を創出し、教員・職員・学生が共に、大学教育のあり方を考え、学び合うことの大切さを自覚することを意図したもので、丸本卓哉学長より開会挨拶があり、「共育」の理念を具体化するワークショップの企画に賛辞の言葉があった。また、学長准中平祐元学長が中心にまとめられた、いわゆる「廣中レポート」(2000年6月)を基点とした学生参加型FDの全国的な動きに言及しながら、本ワークショップのねらいについて説明があった。

今回のワークショップでは、知識創造の技法を使ったグループワークを通して、「今、求められる人材像」の再確認を行い、所属や立場の違いを超えた参加者同士の対話により「今、求められる人材像」を育成するためのアクションプランの設計を目指した。具体的には、教員・職員の属性ごとのグループ編成による第1クール及び教員・職員・学生混合による第2クールの2段階で行った。参加者は、自らが考える「今、求められる人材像」について紹介し、グループメンバーと対話しながら、共通点や相違点を気付かせることともに、その必要性や具体的な方策へと議論を深めた。

後半の全体発表では、林彦大教育機構大学教育センター准教授の進行によりグループ発表が行われ、会場は熱気に包まれた。学生が前向きに発表する姿が印象的であり、「自分の考えをしっかりと持つことができる人材」や「様々な人間関係の中で新しい価値を創造できる人材」などの意見が多くあった。最後に、細田理事・副学長より開会挨拶があり、ワークショップは盛況のうちに終了した。今回のイベントは、山口大学における教育・学習の方向性に新たな契機を与える機会となった。

山口大学
中国・四国地区国立大学法人理学院長会議
「第22回中国・四国地区国立大学法人理学院長会議」が9月19日、岡山市内のホテルで開催された。同会議は高松大学、岡山大学、広島大学、高知大学、愛媛大学、山口大学で構成されており、今年度は山口大学が当番校を務めた。

山口大学の田中理学院長が議長となり、「理学院における地域連携活動について」、FD(フアカルフイ・デイベロップメント)について、「理学院におけるメンタルヘルスケアについて」を協議事項として、各大学の取組状況等が紹介された後、活発な意見交換が行われ、各大学における今後の取組について大変有意義なものとなった。

山口大学 共育ワークショップ 2014 「みんなで山大的教育（共育）について語ろう！」

●コンセプト

山口大学の教育（共育）について、教員、職員、学生が一緒になり、様々な観点から語り合い、考えてみよう。

大学というコミュニティでは、本来、教員、職員、学生が等しく市民権を有していると考えられるべきではないでしょうか。教員が学生を教えるという場面もあれば、教員が学生から教えられる場面があるというのが大学というコミュニティの醍醐味でしょう。大学教育とは、教員、職員、学生が共に創り上げるもの（共創）であり、かつ、共に育み合うもの（共育）です。

●アプローチ

山口大学では、「発見し・はぐくみ・かたちにする」を教育理念に掲げ、次の時代を切り拓く人材育成に取り組んでいます。

今、改めて、教員、職員、学生の立場に立って、「発見し・はぐくみ・かたちにする」ということの意味を考えてみませんか。ワールドカフェ形式のグループワークを通して、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。所属や立場を超えた参加者同士の対話を通して、「発見し・はぐくみ・かたちにする」ためのアクション・プランを考えてみます。教員、職員、学生の共創を通して、山大的教育（共育）をより豊かなものにしていきましょう。

●開催日時

9月22日（月） 13:30～17:00

※ワークショップの詳細は裏面参照

（終了後に情報交換会（懇親会）を行います）

●場 所

総合図書館アカデミック・フォレスト

●対象及び定員規模

本学の教員、職員、学生（学部生・大学院生） 60名程度



●内容構成

- 13:30～13:35 開会挨拶・趣旨説明
- 13:35～14:05 基調講演「みんなで創り上げる大学」
一般社団法人 KSIA(関西学生発イノベーション創出協議会)
常務理事 山下 貴弘
- 14:05～15:10 グループワーク① 『YU World Café(ワールドカフェ)』
「“発見し・はぐくみ・かたちにする”について考えよう！」
※教員、職員、学生の混合によるグループワーク
- [15:10～15:20 休憩]
- 15:20～16:00 グループワーク② 『未来新聞づくり』
「グループアイデアをかたちにしよう！」
- 16:00～16:50 全体発表
- 16:50～17:00 クロージング・閉会挨拶
- [17:10～18:30 情報交換会(懇親会) ※会費:教職員 1,500円、学生 500円]

【申込方法】

申込は、件名「共育ワークショップ申込」とし、「①氏名、②所属・職名(学生の場合は学年)、③e-mail、④情報交換会(懇親会)参加希望の有無」を記入の上、E-mail: ga115@yamaguchi-u.ac.jp(担当:教育支援課教育企画係)あてに送信願います(なお、情報交換会(懇親会)参加希望の方は、当日受付にて会費を徴収いたします)。

【申込締切】

8月7日(木)までとします。

ただし、定員となり次第、申込を締め切らせていただきます。

【問合せ先】

大学教育機構 大学教育センター准教授 林 透

E-mail: toru-h@yamaguchi-u.ac.jp TEL:5067(内線)



山口大・創基 200 周年記念 共育ワークショップ 2014 『みんなで山大の教育(共育)について語ろう!』開催報告

日 時 : 9 月 22 日 (月) 13:30~17:00

場 所 : 吉田キャンパス・総合図書館アカデミック・フォレスト

参加者 : 教員 12 名、職員 25 名、学生 25 名、その他 4 名 計 66 名

概 要 :

- 13 : 30~13 : 35 開会挨拶 岡 正朗 学長
趣旨説明 林 透 大学教育機構・大学教育センター准教授
- 13 : 35~14 : 05 基調講演「みんなで創り上げる大学」
一般社団法人 KSIA (関西学生発イノベーション創出協議会)
山下貴弘 常務理事
- 14 : 05~15 : 10 グループワーク①『YU World Café (ワールドカフェ)』
「“発見し・はぐくみ・かたちにする” について考えよう！」
※教員・職員・学生の混合によるグループワーク
- [15 : 10~15 : 20 休 憩]
- 15 : 20~16 : 00 グループワーク②『未来新聞づくり』
「グループアイデアをかたちにしよう！」
- 16 : 00~16 : 50 全体発表
- 16 : 50~17 : 00 閉会挨拶 瀬 厚 副学長・理事

内 容 :

9 月 22 日 (月) 午後、山口大学創基 200 周年記念・共育ワークショップ 2014「みんなで山大の教育(共育)について語ろう!」が、総合図書館・アカデミック・フォレストにて、教職員・学生 60 名以上を集め、開催された。冒頭、岡正朗学長より開会挨拶があり、山口大学憲章に刻まれた「共育(共にはぐくむ)」の重要性に言及するとともに、10 年後の山口大学ビジョンに向けた積極的な提案への期待を述べられた。また、林 透 大学教育機構大学教育センター准教授より、本ワークショップは教員・職員・学生による共育の場づくりを目的とし、今回は、廣中平祐 元学長が提唱した「発見し・はぐくみ・かたちにする」という教育理念の理解を深めながら、具体的なアクションプランを提案することが狙いである旨の趣旨説明があった。

前半では、一般社団法人 KSIA (関西学生発イノベーション創出協議会) 山下貴弘 常務理事より、『みんなで創り上げる大学』と題して基調講演があり、参加者による自己紹介ワークを挟みながら、学生時代にリーダーを務めた学生参画型 FD 活動の動機や教職員との繋がりから組織が活性化していった実経験を披露し、会場がなごやかな雰囲気になった。その後、一般社団法人参画文化研究会 河島広幸 プロジェクトリーダーがファシリテーターに加わり、グループワークが展開された。グループワーク①「YU World Café (ワールドカフェ)」では、教員・職員・学生混合編成の 10 グループに分かれ、「発見し・はぐくみ・



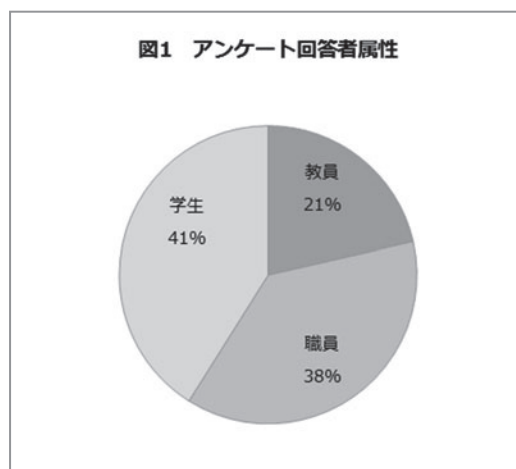
かたちにする」をテーマにした対話を行い、自由なアイデアや具体的な提案などを模造紙一杯に書き込んだ。さらに、グループワーク②「未来新聞づくり」では、ワールドカフェで出されたアイデアを活かしながら、未来の山口大学で期待されるアクションを「未来新聞」のかたちにまとめた。

後半のグループ発表では、まずは、5グループごとの2班に分かれ、班ごとで各グループが未来新聞の紙面を発表し、各班でのベスト未来新聞を選んだ。その後、各班から選ばれたベスト未来新聞の2グループが全体発表を行った。今回は、学生だけでなく、教職員が前向きに発表する姿勢が印象的であり、「山口大学が満足度第1位、山口県サミットを山口大学にて開催」「山口大学を『みんなで大学』に改名、多言語あいさつ運動の進展」など、学生や地域に愛される山口大学の未来が提案され、これからの各種改革等に活かしていくこととした。最後に、額副理事・副学長より閉会挨拶があり、このようなワークショップの機会を通して、「共育」の精神が徐々に実を結びつくことの期待が寄せられた。

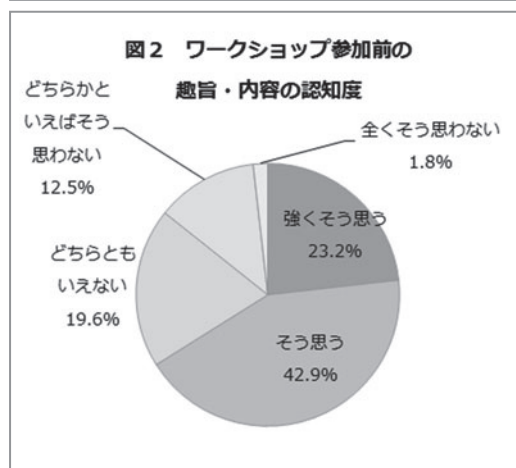


アンケート結果：

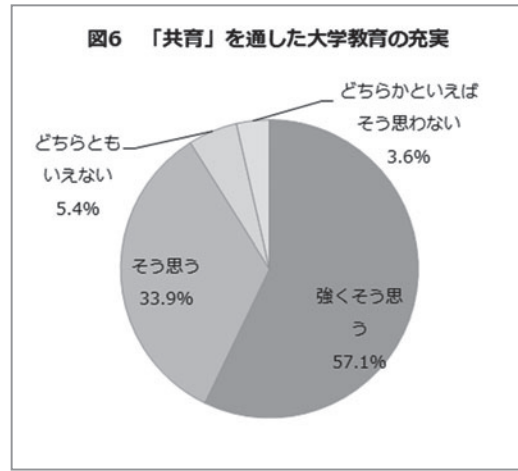
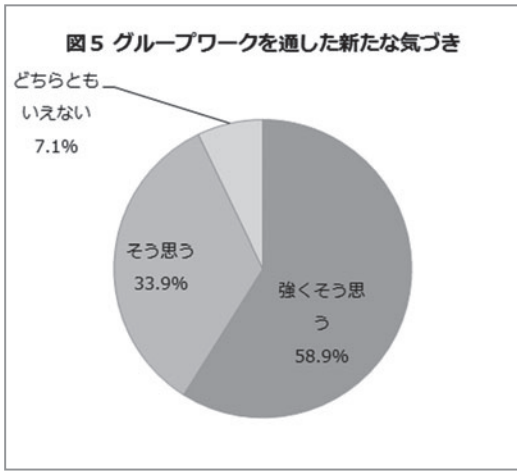
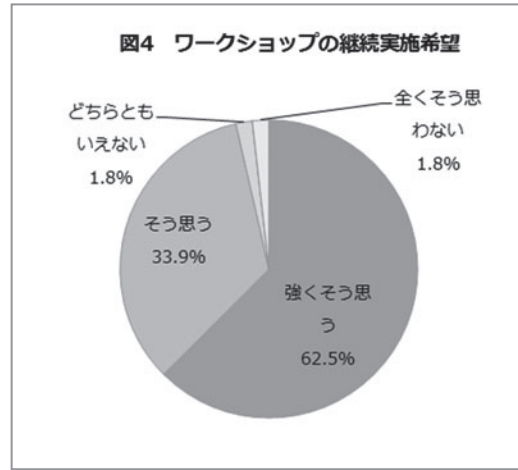
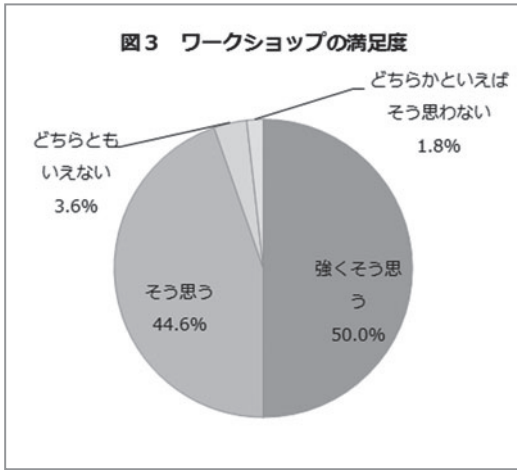
ワークショップ参加者によるアンケートについて、56名（回収率 90.3%（その他を除く））から回答を得た（図1）。共育ワークショップ自体が2回目の開催となり、「ワークショップの趣旨や内容についてある程度知った上で参加したか」という設問では、7割近く（昨年度は4割近く）の参加者が趣旨や内容を把握した上で参加する状況となり、認知度が高まった（図2）。また、実際に参加した上での理解度、満足度については、「強く思う・そう思う」が9割を超え（図3）、今後も継続していくべきであるという意見が同じく9割を超えた（図4）。



グループワークそのものに関連して、「グループワークを通して新しい気づきがあったか」という設問では、9割以上の参加者が新しい気づきを感じており（図5）、ワークショップ自体のコンセプトである、「共育を通して大学教育がより良くなると思うか」とい設問でも9割以上の賛同が得られた（図6）。



ほとんどの設問において、昨年度以上の数値となっており、組織開発 (OD) プログラムとしての共育ワークショップの有効性が改めて窺える結果となった。



まとめ：

山口大学憲章が掲げる「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」の創造を目指して、山口大学を構成する教員・職員・学生が理解を深め、共有することが求められている。今年度のワークショップでは、まさに、「発見し・はぐくみ・かたちにする」をテーマに、教員・職員・学生が抱えているアイデアやイメージを基に対話を行い、山口大学の未来をデザインするというワークに取り組んだ。多様な構成員が一緒になって未来思考を行うことで、今日の複雑化する社会情勢における課題解決の視点を養うことができる。この共育ワークショップという場は、山大の組織力の向上、引いては、山大の教育力の向上を図るための組織開発プログラムであるだけでなく、教員・職員・学生個々に気づきを与え、新しいチャレンジ精神を培う人材育成の機能を果たすものであると考えたい。



今回のワークショップでの新たなアイデアや出会いを大切に、今後の山口大の教育課程・学習支援の充実、教職学協働の強化に努めていきたい。

共育ワークショップ 2014・未来新聞まとめ

グループ・未来新聞名	トピックス
グループ A 『山口茜新聞』	<ul style="list-style-type: none"> ●住民参加型の学生による「自由研究大会」からイグ・ノーベル賞を受賞。 ●山口大学キャンパス移転？ ●心理ゲーム大会参加者募集。
グループ B 『ベンチャー新聞』	<ul style="list-style-type: none"> ●山大発ベンチャーJASDAQ 上場 <ul style="list-style-type: none"> ・ちゃぶ台から始まったサクセスストーリー ・次なる一步、ソフトバンク買収か？ ●官民の連携活用 <ul style="list-style-type: none"> ・山口大学を特定経済発展校に指定。 ・工業・医療分野での IT 化を推進。
グループ C 『毎 YAMA 新聞』	<ul style="list-style-type: none"> ●山口大学 満足度第 1 位の快挙。 学生、教職員、地域における各部門で満足度第 1 位 ●山口県サミット第 1 回が山口大学にて開催 ●YAMA Café による自由な意見交換、異分野交流。
グループ D 『ひまわり新聞』	<ul style="list-style-type: none"> ●ついに実現！！ 学問の新たなかたち <ul style="list-style-type: none"> ・授業システムの変革（オーダーメイド式）
グループ E 『山大グローバル新聞』	<ul style="list-style-type: none"> ●山大満足だ！ YU システム導入。 <ul style="list-style-type: none"> ・YU システムによる学生満足度大幅アップ。 ・グローバルな出会いの場 ・問題解決に進むシステムづくり ・ワークショップ必修化 ●ゆるキャラグランプリ 2024 第 1 位！
グループ F 『何でも話せる知の広場新聞』	<ul style="list-style-type: none"> ●山口大学に発見環境できる！ <ul style="list-style-type: none"> ・雑多にみんなで出会って言い合いを楽しむのが発見環境 ・創基 200 周年記念館 ●共育ワークショップ年間 100 回開催！
グループ G 『知っちゃる？ 山大共育新聞』	<ul style="list-style-type: none"> ●山口大学、「みんなで大学」に改名か？ ●「ぶち教えちやる！」制度の導入。 教職員、学生に関わらず、意欲のある人なら誰でも講義を行うことができる。 ●学生の声 ~多言語あいさつ運動~ ●求む！！ぶちヤバイシラバス！！
グループ H 『キラキラ新聞』	<ul style="list-style-type: none"> ●2024 年、山口大学が地域のネットワークづくりのセンターに！ ●防災の中心に山大あり ●Table For Two × 地産地消 食堂オープン！ ●第 1 回 山大 秋の大運動会開催！

<p>グループ I 『出会い形新聞』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●山口大学、受験倍率が 100 倍に突破か?! ●サロン発の研究成果 1 兆円の収入に!! ●山大サロン
<p>グループ J 『長州新聞 (タイムズ)』</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●山口大学、学費 0 円!! ●ベンチャー企業輩出率世界 No.1 ●クリエイター輩出率 No.1 ●(国政) 政治家輩出率 No.1 大臣の半数以上が山口大学出身!

(参考) 『文教ニュース 10 月 13 日号』掲載 (※『文教速報 10 月 10 日号』に同様掲載)

山口大学・創基200周年記念 共育ワークショップ2014
「みんなで山大的教育(共育)について語ろう!」を開催



9月22日、山口大学創基200周年記念・共育ワークショップ2014「みんなで山大的教育(共育)について語ろう!」が、総合図書館・アカデミックフロアレストにて、教職員・学生60名以上を集め、開催された。冒頭、岡正期学長より開会挨拶があり、山口大学憲章に刻まれた「共育(共にはぐくむ)」の重要性に言及するとともに、10年後の山口大学ビジョンに向けた積極的な提案への期待を述べられた。また、林達大学教育機構大学教育センター准教授より、本ワークショップは教員・職員・学生による共育の場づくりを目的とし、今回は、廣中平祐元学長が提唱した「発見・はぐくみ・かたちにする」という教育理念の理解を深めながら、具体的なアクションプランを提案することが狙いである旨の趣旨説明があった。

前半では、一般社団法人K.S.I.A.(関西学生発イノベーション創出協議会)山下貴弘常務理事より、「みんなで創り上げる大学」と題して基調講演があり、参加者による自己紹介ワークを挟みながら、学生時代にリーダーを務めた学生参加型FD活動の動機や教職員との繋がりが組織が活性化していった実証談を披露し、会場がなごやかな雰囲気になりました。その後、一般社団法人参画文化研究会河島広幸プロジェクトリーダーがファシリテーターに加わり、グループワークが展開されました。

後半のグループ発表では、まずは、5グループごとの2班に分かれ、班ごとで各グループが未来新聞の紙面を発表し、各班でのベスト未来新聞を選んだ。その後、各班から選ばれたベスト未来新聞の2グループが全体発表を行った。

最後に、副学長より開会挨拶があり、このようなワークショップの機会を通じて、「共育」の精神が徐々に実を結びつくことの期待が寄せられた。

出所：週間文教ニュース 平成 26 年 10 月 13 日 (月曜日) 第 2312 号 41 頁

山口大学 共育ワークショップ 2015 「みんなで山大的教育（共育）について語ろう！」

●コンセプト

山口大学の教育（共育）について、教員、職員、学生が一緒になり、様々な観点から語り合い、考えてみよう。

大学というコミュニティでは、本来、教員、職員、学生が等しく市民権を有していると考えられるべきではないでしょうか。教員が学生を教えるという場面もあれば、教員が学生から教えられる場面があるというのが大学というコミュニティの醍醐味でしょう。大学教育とは、教員、職員、学生が共に創り上げるもの（共創）であり、かつ、共に育み合うもの（共育）です。

●アプローチ

山口大学は、「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を教育理念に掲げ、次の時代を切り拓く人材育成に取り組んでいます。

今回は、「あったらいいな、こんな授業」と題して、教員、職員、学生が一緒になって、理想の授業について考えてみたいと思います。知識創造の技法を使ったグループワークを通して、「シラバス作成」を行います。

所属や立場を超えた参加者同士の対話を通して、アイデアフルな授業デザインを楽しんでみませんか。教員、職員、学生の共創を通して、山大的教育（共育）をより豊かなものにしていきましょう。

●開催日時

9月28日（月） 13:30～17:30

※ワークショップの詳細は裏面参照

（終了後に情報交換会（懇親会）を行います）

●場 所

総合図書館アカデミック・フォレスト

●対象及び定員規模

本学の教員、職員、学生（学部生・大学院生） 60名程度



●内容構成

13:30～13:40 開会挨拶・趣旨説明

13:40～14:10 基調講演「大学での学びを変える、学生が変わる」

横浜国立大学 大学教育総合センター助手

(元・東洋大学学生 FD チーム代表)

曾根 健吾

14:10～14:30 グループワーク・オリエンテーション

「シラバス設計の事始め」

14:30～16:30 グループワーク 『あったらいいな、こんな授業』

「みんなでシラバスを作成してみよう！」

[(15:30～15:40 休憩を含む)]

16:30～17:20 全体発表

17:20～17:30 クロージング・閉会挨拶

[17:40～18:30 情報交換会(懇親会) ※会費:教職員 1,000円、学生 500円]

【申込方法】

申込は、件名「共育ワークショップ申込」とし、「①氏名、②所属・職名(学生の場合は学年)、③e-mail、④情報交換会(懇親会)参加希望の有無」を記入の上、E-mail: ga115@yamaguchi-u.ac.jp (担当:教育支援課教育企画係)あてに送信願います(なお、情報交換会(懇親会)参加希望の方は、当日受付にて会費を徴収いたします)。

【申込締切】

8月7日(金)までとします。

ただし、定員となり次第、申込を締め切らせていただきます。

【問合せ先】

大学教育機構 大学教育センター准教授 林 透

E-mail: toru-h@yamaguchi-u.ac.jp TEL:5067(内線)



山口大・創基 200 周年記念 共育ワークショップ 2015 『みんなで山大の教育(共育)について語ろう!』開催報告

日 時 : 9 月 28 日 (月) 13:30~17:30

場 所 : 吉田キャンパス・総合図書館アカデミックフォレスト

参加者 : 教員 16 名、職員 12 名、学生 36 名、その他 2 名 計 66 名

概 要 :

- 13 : 30~13 : 40 開会挨拶 岡 正朗 学長
趣旨説明 林 透 大学教育機構・大学教育センター准教授
- 13 : 40~14 : 10 基調講演「大学での学びを変える、学生が変わる」
曾根 健吾 横浜国立大学 大学教育総合センター助手
(元・東洋大学学生 FD チーム代表)
- 14 : 10~14 : 30 グループワーク・オリエンテーション
「シラバス設計の事始め」
- 14 : 30~16 : 30 グループワーク 『あったらいいな、こんな授業』
「みんなでシラバスを作成してみよう！」
- [(15 : 30~15 : 40 休 憩を含む)]
- 16 : 30~17 : 20 全体発表
- 17 : 20~17 : 30 閉会挨拶 瀨瀬 厚 副学長・理事

内 容 :

9 月 28 日 (月) 午後、創基 200 周年記念・共育ワークショップ 2015「みんなで山大の教育(共育)について語ろう!」は、同大学の教員・職員・学生 66 名を集め、総合図書館・アカデミックフォレストにて開催された。冒頭、岡 正朗 学長より開会挨拶があり、会場一杯に集まった参加者に向けてエールを送り、教職学協働によるシラバス提案への期待を述べられた。また、林 透 大学教育機構大学教育センター准教授より、本ワークショップは教員・職員・学生による共育の場づくりを目的としていること、さらには、本学の教育理念である「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」に基づいたシラバス提案を狙いとしていることについて趣旨説明があった。

前半では、曾根健吾 横浜国立大学 大学教育総合センター助手より、『大学での学びを変える、学生が変わる』と題して基調講演があり、参加者同士のアイスブレイクを挟みながら、授業に関心を持っていない学生が相当数存在する現状の中で、学ぶことにより関心を持つことで、大学生活そのものが充実し、自らの成長に繋がることを伝えるとともに、学生時代を過ごした東洋大学での学修支援、現在の横浜国立大学での学生発案型授業を紹介しながら、学生と教職員が協働して教育改善を行うことで大学教育を変えられると訴えた。



その後、グループワークセッションに移り、林 透 大学教育機構大学教育センター准教授による「シラバス設計の事始め」と題したオリエンテーションを経て、グループワーク

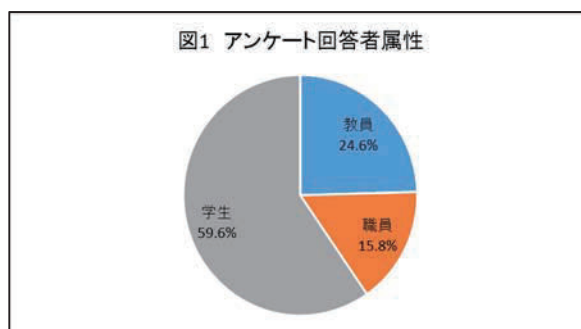
『あったらいいな、こんな授業』『みんなでシラバスを作成してみよう!』では、教員・職員・学生協働の10チームがシラバス作成とグラフィック・デザインに挑んだ。

後半のポスターセッションでは、5グループごとの2班に分かれ、班ごとに各グループがシラバス及びグラフィック・デザインの内容を発表し、各班でのベストシラバスを選んだ。その後、各班から選ばれたベストシラバスの2グループが全体発表を行った。今回は、教職学協働チームが一緒になって発表する風景が印象的であり、「山口探検し隊」「コミュニケーションが世界を変える!」「タメグチ〇〇検定」「空き家政策学」など、学生自らが関心テーマを設定するオーダーメイド型、地域をフィールドとした実地型の授業科目が目立ち、共通点が感じられた。最後に、額厚 理事・副学長より閉会挨拶があり、「共育」の言葉が定着したことに触れながら、本ワークショップで試みられた学生発案を取り入れた授業設計・実践への期待が述べられた。

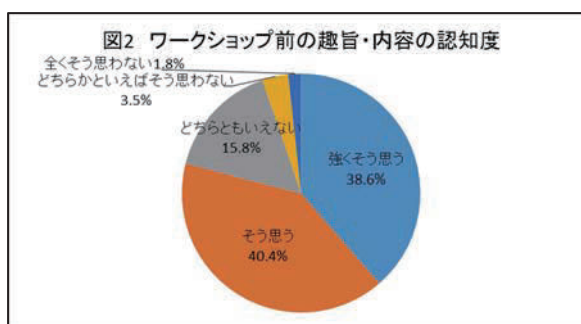


アンケート結果：

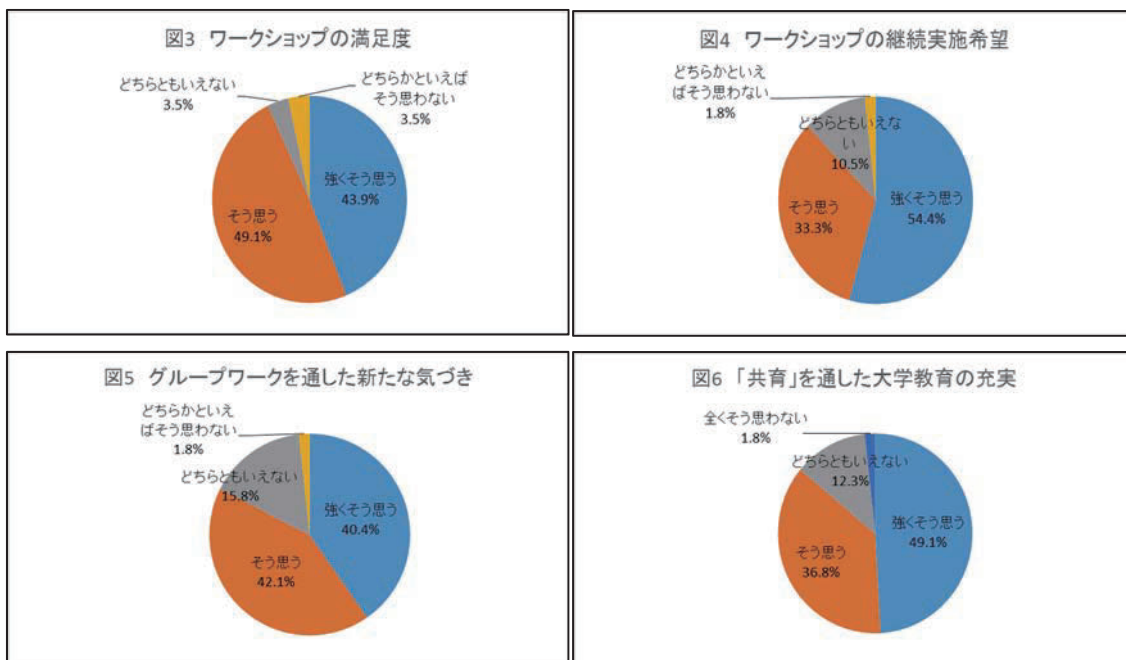
ワークショップ参加者によるアンケートについて、57名（回収率86.4%）から回答を得た（図1）。共育ワークショップ自体が3回目の開催となり、「ワークショップの趣旨や内容についてある程度知った上で参加したか」という設問では、8割近く（昨年度は7割近く）の参加者が趣旨や内容を把握した上で参加する状況となり、認知度が高まった（図2）。また、実際に参加した上での理解度、満足度については、「強くそう思う・そう思う」が9割を超え（図3）、今後も継続していくべきであるという意見が9割近くとなった（図4）。



グループワークそのものに関連して、「グループワークを通して新しい気づきがあったか」という設問では、8割以上の参加者が新しい気づきを感じており（図5）、ワークショップ自体のコンセプトである、「共育を通して大学教育がより良くなると思うか」とい設問でも9割近くの賛同が得られた（図6）。



今回のグループワークは、同一グループでのシラバス作成であったが、ほとんどの設問において、昨年度同様の高い理解度・満足度を得る数値となっており、組織開発（OD）プログラムとしての共有ワークショップの有効性が改めて窺える結果となった。



まとめ：

山口大学憲章が掲げる「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」の創造を目指して、山口大学を構成する教員・職員・学生が理解を深め、共有することが求められている。今年度のワークショップでは、「あったらいいな、こんな授業」をテーマに、教員・職員・学生の学習経験や授業イメージを基に対話を行い、グループとしての理想の授業シラバス及びグラフィック・デザインを行うワークに取り組んだ。

大学教育の現場において日常的に接しているシラバスの意義や構造について認識し直しながら、教える立場や学ぶ立場からのアイデア提案を行うことで、「授業とは何か」、「学習者はどうあるべきか」という原点を見つめることができたのではなかろうか。学生発案を通じた授業設計の充実という新たな視点に気づくワークショップとなった。

この共有ワークショップという場は、山大の組織力の向上、引いては、山大の教育力の向上を図るための組織開発プログラムであるだけでなく、教員・職員・学生個々に気づきを与え、新しいチャレンジ精神を培う人材育成の機能を果たすものであると考えたい。

今回のワークショップでの新たなアイデアや出会いを大切に、今後の山口大の教育課程・学習支援の充実、教職学協働の強化に一層努めていきたい。





山口大学 共育ワークショップ2016 「みんなで大学の教育（共育）について語ろう！」

●コンセプト

大学の教育（共育）について、教員、職員、学生が一緒になり、様々な観点から語り合い、考えてみよう。

大学というコミュニティでは、本来、教員、職員、学生が等しく市民権を有していると考えerべきではないでしょうか。教員が学生を教えるという場面もあれば、教員が学生から教えられる場面があるというのが大学というコミュニティの醍醐味でしょう。大学教育とは、教員、職員、学生が共に創り上げるもの（共創）であり、かつ、共に育み合うもの（共育）です。

●アプローチ

学生参画型教育改善・授業改善の取組として、学生FD活動が全国各地の大学・短大に広がっています。山口大学では、2017年3月に、学生FDの全国イベント「学生FDサミット2017春」を開催します。

今回は、【学生FDサミット・プレイベント企画】として、山口県内の大学・短大の教員、職員、学生が一緒になり、大学教育の現在・未来について話し合ってみたいと思います。所属や立場を超えた参加者同士の対話を通して、アイデアフルな大学教育の未来予想図をデザインしてみませんか。教員、職員、学生の共創を通して、大学教育をより豊かなものにしていきましょう。

●開催日時

9月26日（月） 13:30～17:30

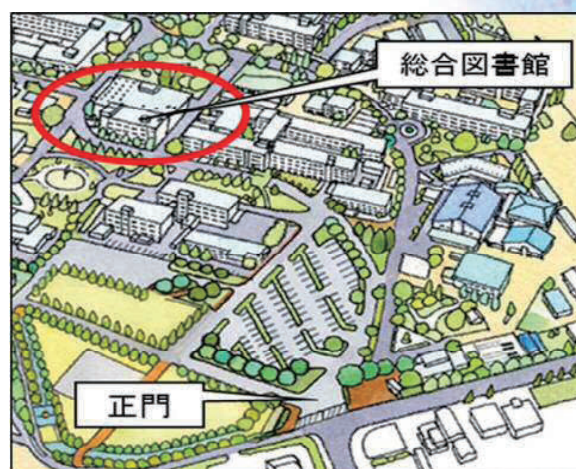
※ワークショップの詳細は裏面参照

（終了後に情報交換会（懇親会）を行います）

●場 所

山口大学総合図書館

アカデミック・フォレスト（吉田キャンパス）



●対象及び定員規模

山口県内の大学・短大の教員、職員、学生（学部生・大学院生） 60名程度

●内容構成

13:30～13:40 開会挨拶・趣旨説明

13:40～14:20 基調対談「学生FDの原点と未来へのメッセージ」

元・立命館大学教授 木野 茂

法政大学職員 平野 優貴

14:20～14:30 グループワーク・オリエンテーション

山口大学 学生FDグループ YC.CAM

14:30～16:30 グループワーク

「みんなで大学の教育(共育)について考えてみよう！」

[(15:30～15:40 休憩を含む)]

16:30～17:20 全体発表

17:20～17:30 クロージング・閉会挨拶

[17:40～18:30 情報交換会(懇親会) ※会費:教職員1,000円、学生500円]

【申込方法】

申込は、件名「共育ワークショップ申込」とし、「①氏名、②所属・職名(学生の場合は学年)、③e-mail、④情報交換会(懇親会)参加希望の有無」を記入の上、E-mail: ga115@yamaguchi-u.ac.jp(担当:山口大学 学生支援部 教育支援課 教育企画係)あてに送信願います(なお、情報交換会(懇親会)参加希望の方は、当日受付にて会費を徴収いたします)。

【申込締切】

8月10日(水)までとします。

ただし、定員となり次第、申込を締め切らせていただきます。

【問合せ先】

山口大学 大学教育機構 大学教育センター准教授 林 透

E-mail: toru-h@yamaguchi-u.ac.jp TEL:083-933-5067



学生 FD サミット・イベント企画 共育ワークショップ 2016 『みんなで大学の教育(共育)について語ろう!』開催報告

日 時 : 9月26日(月) 13:30~17:30

場 所 : 吉田キャンパス・総合図書館アカデミックフォレスト

参加者 : 学生26名、教員13名、職員17名 計56名

概 要 :

- 13:30~13:40 開会挨拶 岡 正朗 学長
趣旨説明 林 透 大学教育機構・大学教育センター准教授
- 13:40~14:20 基調講演「学生FDの原点と未来へのメッセージ」
木野 茂 元・立命館大学教授
平野 優貴 法政大学職員
- 14:20~14:30 グループワーク・オリエンテーション
林 透 大学教育機構・大学教育センター准教授
平野 優貴 法政大学職員
- 14:30~16:30 グループワーク
「みんなで大学の教育(共育)について考えてみよう!」
[(15:30~15:40 休憩を含む)]
- 16:30~17:20 全体発表
- 17:20~17:30 クロージング・閉会挨拶 福田 隆真 理事・副学長

内 容 :

9月26日(月)、共育ワークショップ2016「みんなで大学の教育(共育)について語ろう!」を本学総合図書館アカデミックフォレストにて開催し、56名(学生26名、教員13名、職員17名)が参加した。共育ワークショップは、大学教育センターが主催し、大学の教育(共育)について、学生、教職員が一緒になり、様々な観点から語りあい、考えてみるというもので、2013年度から始まり、今年で4年目となる。今回は、2017年3月に、本学が学生FDサミット2017春を主催することに伴い、そのイベントを兼ね、山口県立大学や島根県立大学の学生も加わって開催された。

はじめに、岡 正朗 学長より「FD活動は全国の大学に広がっている。いろんなアイデアを出し合い、近未来の大学教育をどうするか、楽しく建設的に議論してほしい」と開会挨拶があった後、元立命館大学教授 木野 茂 氏と法政大学職員 平野 優貴 氏による基調対談が行われ、FD活動に携わることになったきっかけや、学生FD活動について紹介があった。



その後のグループワークでは、大学教育センター 林 透 准教授と法政大学 平野 優貴 氏のファシリテーションにより、第1弾「学びの経験を話そう!」では、人生においてどういう経験をし、そこから何を学んだかについて話し合い、最後に、” My Learning

Catalog”（別添様式参照）を作成し、全体共有をした。第2弾では、第1弾で話したことを踏まえ「学生FDサミット2017春をプロデュースしてみよう！」と題して、学生FDサミットで行うプログラム内容についてグループごとにアイデアを話し合い、プロデュース提案（別添様式参照）としてまとめた。



第3弾では、3班に分かれてのグループ発表の後、最終的に選ばれた3案について全体発表が行われ、「学生と教員の理想の授業を話し合い、実践する」、「学生FDサミットのエンブレムを作る」「大学で独自に実施している企画、計画を、自分の大学でも実践できないか考える」といった特徴ある提案が発表された。今回提案されたアイデアは、学生FDサミット2017の企画に活かすこととした。

最後に、福田 隆真 副学長より「年齢、地域の異なる人達が集まって新しいことを考えていくことが、未来に繋がっていく」と閉会挨拶があり、来年開催される学生FDサミットへの期待が述べられた。



アンケート結果：

ワークショップ参加者によるアンケートについて、46名（回収率82.1%）から回答を得た（図1）。今回は、学生FDサミット・イベント企画として開催し、本学以外の参加者がいたため、「ワークショップの趣旨や内容についてある程度知った上で参加したか」という設問では、6割近くの参加者が趣旨や内容を把握した上で参加する状況となっている（図2）一方、実際に参加した上での満足度については、「強くそう思う・そう思う」が8割を超え（図3）、今後も継続していくべきであるという意見が9割を大きく上回った（図4）。

グループワークそのものに関連して、「グループワークを通して新しい気づきがあったか」という設問では、9割を大きく上回る

図1 アンケート回答者属性

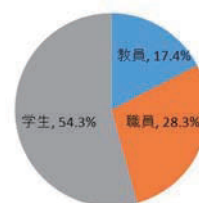
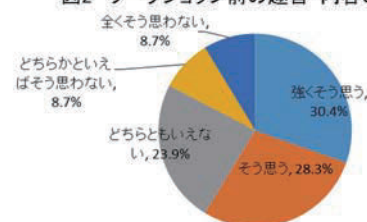
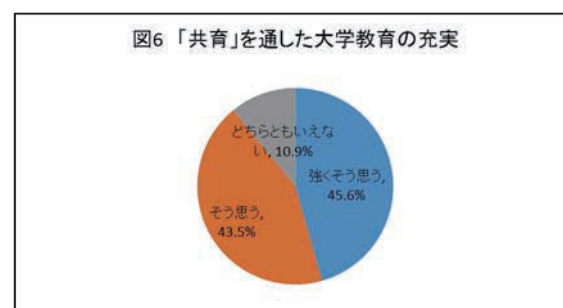
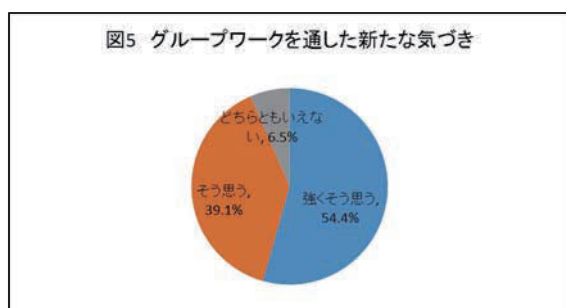
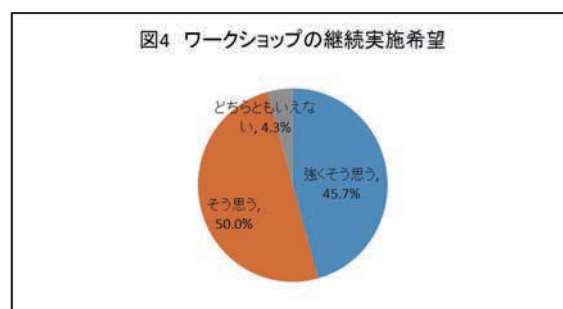
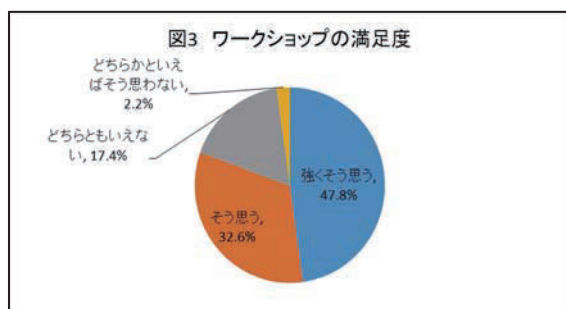


図2 ワークショップ前の趣旨・内容の認知度



参加者が新しい気づきを感じており（図5）、ワークショップ自体のコンセプトである、「共育を通して大学教育がより良くなると思うか」とい設問でも9割の賛同を得た（図6）。

今回のグループワークは、学生FDについて理解を深め、学生FDサミット2017春をプロデュース提案する内容であったことから、グループワークを通して新たな気づきを得た参加者が非常に多かったことが特徴である。組織開発（OD）プログラムとしての共育ワークショップの有効性が改めて窺える結果となった。



まとめ：

山口大学憲章が掲げる「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」の創造を目指して、山口大学を構成する教員・職員・学生が理解を深め、共有することが求められている。今年度のワークショップでは、来年3月に本学主催で開催する学生FDサミット2017のプレイベントとして、「学びの経験」を第一テーマに、さらには、学生・教員・職員による学生FDサミットのプロデュース提案を第二テーマに、各種ワークに取り組んだ。

学生FDサミット2017春のテーマである「Borderless Campus ～学びのフィールドはどこにある？～」を中心に、参加者みんなで対話することができたことは大きな成果であり、具体的な企画に活かせるアイデアを頂いたと感じている。

この共育ワークショップという場は、山口大の組織力の向上、引いては、山口大の教育力の向上を図るための組織開発プログラムであるだけでなく、教員・職員・学生個々に気づきを与え、新しいチャレンジ精神を培う人材育成の機能を果たすものである。さらに、今回は、学外の参加者を得て、その輪を広げることができた。

今回のワークショップでの新たなアイデアや出会いを大切に、今後の山口大の教育課程・学習支援の充実、教職学協働の強化に一層努めていきたい。



My Learning Catalog

★「自分ににとって一番の学びとは?」

★「自分に合った学び方とは?」

学生FDサミット 2017春 in Yamaguchi

テーマ：Borderless Campus ～学びのフィールドはどこにある？～

サミットの達成目標

2日間のプログラム案（3月2日（木）・3日（金））

アピールポイント（目玉企画など）

山口大学 共育ワークショップ 2018



みんなで教育共育について語ろう!

～大学と高等学校による授業協奏曲～

平成30年 3月15日 木 14:00-17:00

参加無料

会場 山口大学共通教育棟(吉田キャンパス)

対象 大学関係者、学校関係者、
大学生、高校生ほか

●主催:山口大学(大学教育再生加速プログラム(YU-AP))

●共催:徳山大学

●後援:大学リーグやまぐち、山口県教育委員会、山口県私立中学高等学校協会



プログラム

14:00～14:10 開会挨拶 山口大学長 岡 正朗

14:10～14:50 【1限目:基調講演】

「生徒・学生が輝く『学び』とは」 認定NPO法人カタリバ代表理事 今村 久美氏

休み時間(教室移動)

15:00～15:45 【2限目:大学×高等学校による模擬授業】 <選択制>

①大学の模擬授業(1)

「目に見えない世界を科学する

～微生物バイオテクノロジー概論～

山口大学創成科学研究科(農学系)准教授 藤井 克彦氏
(山口大学第2回アクティブ・ラーニング(AL)ベストティーチャー)

②大学の模擬授業(2)

「みんなの世界をビジュアル化

～ものづくりのキャッチボール～

徳山大学経済学部 知財開発コース教授 なかはら かげ氏

③高等学校の模擬授業(1)

「ビジュアル教材でイングリッシュ

～子供のときの思い出・選択と幸せの関係～

山口県立西京高等学校 英語科教諭 和田 将太氏

④高等学校の模擬授業(2)

「三角形の心の探究 ～心の相互関係～」

野田学園高等学校 数学科教諭 河本 順康氏

休み時間(教室移動)

15:55～16:55 【3限目:ダイアログ・セッション】

「大学の授業と高等学校の授業ってどうなの？」

模擬授業担当教員×大学生×高校生

16:55～17:00 閉会挨拶

山口大学理事・副学長 福田 隆眞

お申込み方法

3月14日(水)までに、YU-AP ホームページの「案内ページ」よりお申込ください。

<http://www.yuap.oue.yamaguchi-u.ac.jp/workshop>

[お問い合わせ]



大学教育機構 大学教育センター (YU-AP 推進室)

TEL: 083-933-5261 E-mail: yuap@yamaguchi-u.ac.jp

趣旨・目的

2014年12月公表の中央教育審議会『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学選抜の一体的改革について（答申）』を受け、高等学校教育、大学教育、大学入学選抜の一体的改革が進み、2016年3月『高大接続システム改革会議「最終報告」』のほか、学習指導要領が大きく変わろうとしています。生徒や学生の確かな学力を育成することを目的に、「主体的・対話的で深い学び」を促すアクティブ・ラーニングの視点による授業改善が学校種を超えた共通テーマとなっています。このような状況において、大学関係者と学校関係者が一緒になって、教育について考える場が必要不可欠です。

今回のワークショップでは、教育を通じた社会的起業家である認定NPO法人カタリバ代表理事 今村久美氏の基調講演を皮切りに、山口県内初の大学と高等学校が連携する模擬授業セッションを企画し、高大接続による人材育成をテーマに、みんなで語り合いたいと思います。

なお、本ワークショップは、山口大学・大学教育再生加速プログラム（YU-AP）中間成果交流会として開催いたします。

1 限目：基調講演

「生徒・学生が輝く『学び』とは」

認定NPO法人カタリバ代表理事 今村久美氏

プロフィール

1979年生まれ。慶應義塾大学卒。2001年にNPOカタリバを設立し、高校生のためのキャリア学習プログラム「カタリ場」を開始。2011年の東日本大震災以降は被災した子どもたちに学びの場と居場所を提供する「コラボ・スクール」を運営するなど、社会の変化に応じてさまざまな教育活動に取り組む。「ナナムの関係」と「本音の対話」を軸に、思春期世代の「学びの意欲」を引き出し、大学生など若者の参画機会の創出に力を入れる。ハタチ基金代表理事。2015年より文部科学省中央教育審議会 教育課程企画特別部会委員。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 文化・教育委員会委員。



2 限目：大学 × 高等学校による模擬授業 《選択制》

①大学の模擬授業(1)

「目に見えない世界を科学する

～微生物バイオテクノロジー概論～

山口大学創成科学研究科(農学系)准教授 藤井 克彦氏
(山口大学第2回アクティブ・ラーニング(AL)ベストティーチャー)

授業概要

我々人間はさまざまな微生物から恩恵を受けて快適な生活を送っています。時には害(疾病)を加えられることもあります。また人類は減っていませんので「そこそこの良好な関係」を微生物と築いていると考えて良さそうです。しかし、Leeuwenhoek が自作の顕微鏡で微生物を観察して以来、微生物学は300年以上の歴史を持ちますが、実は「自然界に棲息する微生物の99%以上は、まだ実験室で培養すらできていない」ことがわかってきました。そこで、この99%の眠れる資源の中から、我々の生活や産業を飛躍的に発展させてくれるような新しい微生物種を探そうとする研究が盛んになっています。今回の模擬授業では、社会で活用されている微生物バイオテクノロジーの一端を解説したいと思います。

②大学の模擬授業(2)

「みんなの世界をビジュアル化

～ものづくりのキャッチボール～

徳山大学経済学部 知財開発コース教授 なかはら かぜ氏

授業概要

徳山大学の知財開発コースでは、学生たちの知的財産をコンテンツを使って引き出す学びを行っています。漫画・イラストレーション・映像制作・アニメーションなどです。それらの「ものづくり」の基本は、作品を第三者に見せることによって、その反応や評価から自分の知的財産を発見し、それをスキルアップさせていくところにあります。先生から学生、学生から先生といった方向だけではなく、学生同士、または自分から内なる自分へという自己発見が可能です。今回は4コマ漫画というオーソドックスな漫画形式を利用して、みなさんの世界観を描いていただきます。みなさんの頭の中にある宝物探しに挑戦しましょう！

③高等学校の模擬授業(1)

「ビジュアル教材でイングリッシュ

～子供のときの思い出・選択と幸せの関係～

山口県立西京高等学校 英語科教諭 和田 将太氏

授業概要

タイトルにあるように、英語の授業をビジュアル教材を使いながら行います。テーマは「子供のときの思い出」と「選択と幸せの関係について」です。このテーマのもと、講義を受けられる皆さんにもたくさん英語を話してもらいながら、楽しく授業の内容について考え、理解してもらえたらと思います。皆さんは「子供のときの思い出について話してください」といわれたとき、皆さんはどんなことが思い浮かびますか？たくさんある皆さんの思い出からあるテーマに焦点を当てていき授業を展開します。もうひとつは「選択について」です。皆さんは「選択」と聞いて、どんなことが思い浮かびますか？この授業では、選択に関する実験について行います。ぜひ受講しに来てください。

④高等学校の模擬授業(2)

「三角形の心の探究 ～心の相互関係～

野田学園高等学校 数学科教諭 河本 順康氏

授業概要

本授業では、三角形の重心、内心、外心、垂心の相互関係を予想します。この予想を立てる過程で、図形に対する理解を深めるとともに興味・関心を高めることを目標とします。

すべての三角形において成り立つ4点の相互関係の予想を立てることを目指しますが、まずは特殊な三角形(正三角形、二等辺三角形、直角三角形)で4点を作図し、これらの三角形において成り立つことを探究することから始めます。この活動後に、すべての三角形に対する予想を立て、それが成り立ちそうかを動的数学ソフトウェア「GeoGebra」を用いて視覚的に確認します。また、本授業では予想を立てることに重点を置くため、立てた予想の証明は行いません。

山口大学 共育ワークショップ2018

『みんなで大学の教育(共育)について語ろう! ~大学と高等学校による授業協奏曲~』 開催報告

日時 : 2018年3月15日(木) 14:00~17:00

場所 : 山口大学共通教育棟(吉田キャンパス)

参加者 : 学内38名(教職員27名、大学生11名)、
学外52名(教職員31名、大学生6名、高校生14名、高専生1名) 計90名

主催 : 山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)

共催 : 徳山大学

後援 : 大学リーグやまぐち、山口県教育委員会、山口県私立中学高等学校協会

対象 : 大学関係者、学校関係者、大学生、高校生ほか

構成 :

14:00~14:10 開会挨拶 山口大学長 岡 正朗

14:10~14:50 【1限目:基調講演】

「生徒・学生が輝く『学び』とは」

認定NPO法人カタリバ代表理事 今村 久美

(休み時間(教室移動))

15:00~15:45 【2限目:大学×高等学校による模擬授業】《選択制》

①大学の模擬授業(1)

『目に見えない世界を科学する ~微生物バイオテクノロジー概論~』

山口大学創成科学研究科(農学系)准教授 藤井 克彦

(山口大学第2回アクティブ・ラーニング(AL)ベストティーチャー)

②大学の模擬授業(2)

『みんなの世界をビジュアル化 ~ものづくりのキャッチボール~』

徳山大学経済学部 知財開発コース教授 なかはら かぜ

③高等学校の模擬授業(1)

『ビジュアル教材でイングリッシュ ~子供のときの思い出・選択と幸せの関係~』

山口県立西京高等学校 英語科教諭 和田 将太

④高等学校の模擬授業(2)

『三角形の心の探究 ~心の相互関係~』

野田学園高等学校 数学科教諭 河本 順康

(休み時間(教室移動))

15:55~16:55 【3限目:ダイアログ・セッション】

「大学の授業と高等学校の授業ってどうなの?」

模擬授業担当教員×大学生×高校生

16:55~17:00 閉会挨拶 山口大学理事・副学長 福田 隆真

[総合司会・進行:山口大学 大学教育機構 大学教育センター准教授 林 透]

内 容：

2018年3月15日（木）、共育ワークショップ2018「みんなで大学の教育（共育）について語ろう！ ～大学と高等学校による授業協奏曲～」を本学共通教育棟（吉田キャンパス）にて開催し、学内外から90名（学内38名（教職員27名、大学生11名）、学外52名（教職員31名、大学生6名、高校生14名、高専生1名））が参加した。共育ワークショップは、大学教育センターが主催し、大学の教育（共育）について、学生、教職員が一緒になり、様々な観点から語りあい、考えてみるというもので、2013年度から始まり、今年で5年目となる。今回は、2014年12月公表の中央教育審議会答申『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）』を受け、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革が進み、2016年3月『高大接続システム改革会議「最終報告」』のほか、学習指導要領が大きく変わろうとしている中で、生徒や学生の確かな学力を育成することを目的に、「主体的・対話的で深い学び」を促すアクティブ・ラーニングの視点による授業改善が学校種を超えた共通テーマとなっており、大学関係者と学校関係者が一緒になって、教育について考える場を提供した。なお、本ワークショップは、山口大学・大学教育再生加速プログラム（YU-AP）中間成果交流会として開催した。

はじめに、岡 正朗 学長より開会挨拶があり、近年の高大接続改革の重要性に言及しながら、大学生や高校生を交えて授業のあり方等について対話する今回のワークショップへの期待が述べられました。

1 限目：基調講演では、認定 NPO 法人カタリバ代表理事 今村 久美 氏より「生徒・学生が輝く『学び』とは」と題して、今村氏自身の高校生時代や大学生時代の経験を紹介しながら、高校生と大学生のナナメの関係を活かした対話の場「カタリ場」を発案した経緯などを話し、現在の若者への期待や可能性についてメッセージを送った。山口県内で実施している「カタリ場」に関わっている山口県立大学生との本音トークや、「カタリ場」を受講した山口県立西京高等学校の高校生からの感想など、盛りだくさん内容が提供された。



2 限目：大学×高等学校による模擬授業では、山口大学、徳山大学、山口県立西京高等学校、野田学園高等学校の教員から、それぞれ趣向を凝らしたアクティブ・ラーニング型授業が提供された。参加者は事前に希望した授業を各教室に分かれて受講した。山口大学 藤井 克彦准教授の模擬授業では、微生物バイオテクノロジーの学術的概念や現実社会での微生物の生態など、最先端の研究内容を学んだ。徳山大学 なかはら かげ教授の模擬授業では、4コマ漫画を作図するというワークが課され、ストーリー展開を考えながら、自らの考えをイラスト化するという授業を体感した。山口県立大学西京高等学

校 和田 将太 先生の模擬授業では、授業中は英語のみによるグループ対話・質疑応答に終始し、子供のときの自らの経験などを英語で表現する授業を体感した。野田学園高等学校 河本 順康 先生の模擬授業では、三角形の重心・内心・外心・垂心について、正三角形、二等辺三角形、直角三角形の3グループに分かれ、ジグソー法を活用した相互学習を体感した。



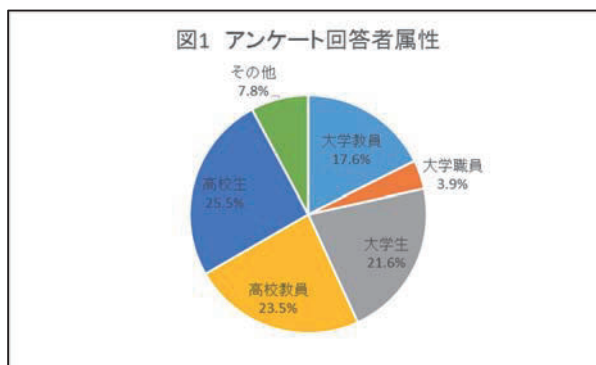
3 限目:ダイアログ・セッションでは、山口大学 大学教育機構 大学教育センター 林 透 准教授のファシリテーションのもと、11グループ(1グループ5~6名)に分かれ、模擬授業を受けた感想や気づきを話し合いながら、「大学の授業への期待や要望」「高等学校の授業への期待や要望」についてリストアップした。最後に、「大学の授業への期待や要望」「高等学校の授業への期待や要望」のうち、最も大事だと思ったアイデアをスケッチブックに書き出し、全体発表を行った。各グループから高校生または大学生が代表して積極的に発表する姿が印象的であった。「考える楽しみを感じられる授業」「将来やりたいことが見つかるような興味が持てる授業」「色々な価値観や意見が知りたい、柔軟に考えたい」「答えのない活動をする中で自分の考えを自由に共有できる空気づくりが大切」「アウトプットする機会が欲しい」「(生徒と教師が、)授業を一緒に作る」などの提案があり、今後の大学や高等学校の授業充実に役立てることとした。



最後に、福田 隆真 副学長より閉会挨拶があり、今後もこのような大学と高等学校の交流の機会を作っていきたいとの言葉が述べられた。

アンケート結果：

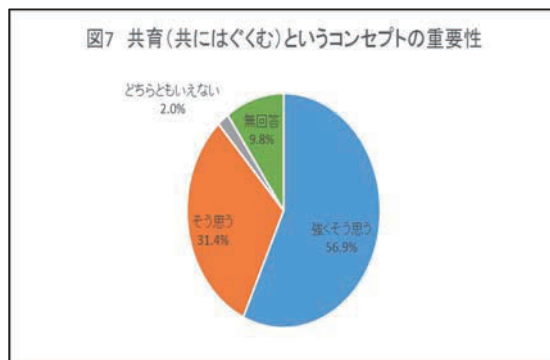
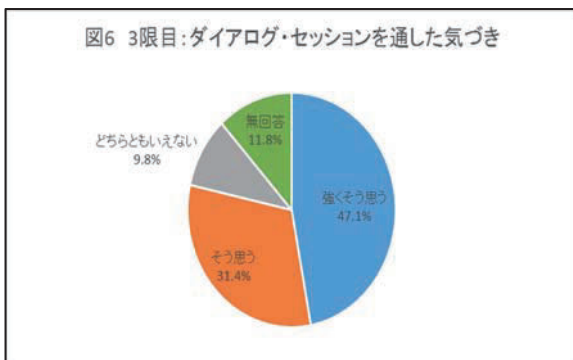
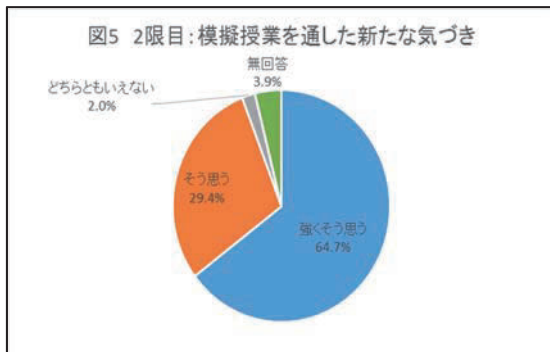
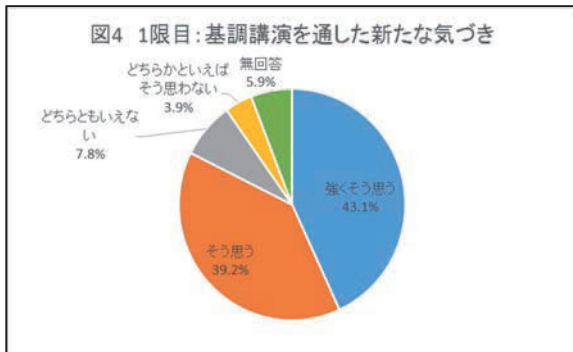
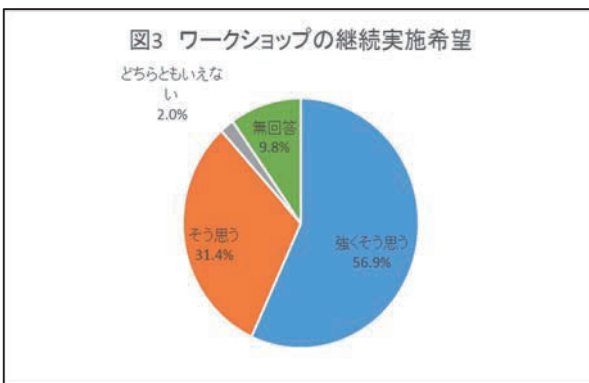
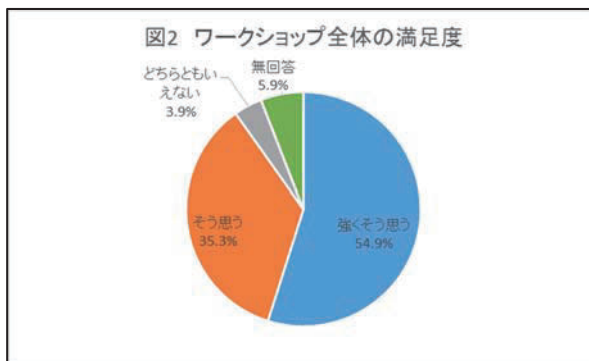
ワークショップ参加者によるアンケートについて、51名(回収率56.7%)から回答を得た(図1)。今回は、大学と高等学校の交流や模擬授業競演をテーマに開催され、ワークショップ全体の満足度については、「強くそう思う・そう思う」が9割を超え(図2)、今後も継続していくべきであるという意見が9割近い回答となった(図3)。



1 限目から 3 限目までを受講した参加者に新しい気づきがあったかという設問において、1 限目：基調講演では 8 割以上（図 4）、2 限目：模擬授業では 9 割以上（図 5）、3 限目：ダイアログ・セッションでは 8 割近く（図 6）の参加者が何らかの気づきがあったと回答しており、特に、模擬授業を通した新しい気づきが非常に多かったことは、「大学と高等学校による授業協奏曲」という趣旨を十分に達成できた成果である。

また、共育ワークショップ自体のコンセプトへの理解に関する「共育（共にはぐくむ）というコンセプトは大切か」という設問では 9 割近い賛同を得た（図 7）。

以上、1 限目：基調講演、2 限目：模擬授業、3 限目：ダイアログ・セッションを通して、参加者が新たな気づきを得、全般的に満足度の高い機会となった。組織開発（OD）プログラムとしての共育ワークショップの有効性が改めて窺える結果となった。



まとめ：

山口大学憲章が掲げる「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」の創造を目指して、山口大学を構成する教員・職員・学生が理解を深め、共有することが求められている。今年度のワークショップでは、高大接続や高大連携を第一テーマに、さらには、生徒と学生の瞳が輝く学びを第二テーマに、各種企画に取り組んだ。山口大学・大学教育再生加速プログラムを中心に広がりつつある、アクティブ・ラーニングや学修評価を通じた大学と高等学校の情報交流から今回の共有ワークショップが生まれた。

この共有ワークショップという場は、山口大の組織力の向上、引いては、山口大の教育力の向上を図るための組織開発プログラムであるだけでなく、教員・職員・学生個々に気づきを与え、新しいチャレンジ精神を培う人材育成の機能を果たすものである。さらに、今回は、地域の学校教員や高校生の参加者を得て、その輪を広げることができた。

今回のワークショップでの新たなアイデアや出会いを大切に、今後の山口大の教育課程・学習支援の充実、教職学協働の強化に一層努めていきたい。



多様化社会において 必要とされる コンピテンシーとは

～高大接続・社会接続の観点から～

3/14 木 2019. 13:30-17:00

会場 山口大学吉田キャンパス 大学会館 2階会議室

- 対象：大学関係者（教職員・学生）、高等学校関係者（教員・生徒）、企業・行政関係者（ほか（参加無料）
- 主催：山口大学・大学教育再生加速プログラム（YU-AP）

13:30-13:40 開会挨拶・趣旨説明 **福田 隆眞**（山口大学理事・副学長〈教育学生担当〉）

13:40-14:10 **北尾 洋二**（株式会社ザメディアジョン・リージョナル 代表取締役／内閣官房 地域活性化伝道師）

「『巻き込む力』を育むには ～企業家（起業家）からのメッセージ～」

14:10-14:40 **溝上 広樹**（熊本県立熊本北高等学校 教諭／アクティブラーニング型授業研究会くまもと 代表）

「『探究する力』を育むには ～高等学校現場からのメッセージ～」

14:40-14:55 **林 透**（山口大学 大学教育機構 大学教育センター准教授）

「山口大学・大学教育再生加速プログラム（YU-AP）からのメッセージ」

[休 憩]

15:05-16:50 SDGs カードによるワークショップ

ファシリテーター：**中川 耕治**（学校法人 広島城北学園 広島城北中・高等学校 教頭）
越 希美江（Communication Lab. Beyond words 代表）

「2030年多様化社会を見つめ、必要とされるコンピテンシーについて考えてみよう!」

16:50-17:00 クロージング・閉会挨拶 **菊政 勲**（山口大学 大学教育機構 大学教育センター長）

多様化社会において必要とされるコンピテンシーとは

～高大接続・社会接続の観点から～

多様化社会において、大学教育・学校教育は大きく変わろうとしています。アクティブラーニング、探究学習において、どのようなコンピテンシーを鍛え、身に付けるべきなのでしょう。

高大接続・社会接続の観点から、「巻き込む力」「探究する力」に焦点を当て、多様なステークホルダーからのメッセージとともに、参加者みんなで考え、共に育む機会したいと思います。

なお、本イベントは、山口大学・大学教育再生加速プログラム (YU-AP) 事業成果交流会の一環として開催いたします。

●基調講演 (1)

「『巻き込む力』を育むには ~企業家 (起業家) からのメッセージ~」

北尾 洋二 (株式会社ザメディアジョン・リージョナル 代表取締役 / 内閣官房 地域活性化伝道師)

21世紀も20年近くが経過し、科学技術の進展により世界的に生活・文化水準が向上し、価値観が多様化したことで、共有や共感といった「分かち合うこと」「互いを理解すること」が複雑になってきています。ある一方では、世代や地域を越えて、インターネットを活用したシェアリングエコノミーといった「シェア」の概念で、それは容易になりました。またある一方では、複雑化により世代間交流が分断され、統一的な(アイドル的な)象徴やムーブメント、共有や共感は得られ難くなりました。この両方を繋ぎ止めることができるのが「巻き込む力」です。「高大接続・社会接続」の観点から、現代社会が希求する「巻き込む力」についてお話させていただきます。



プロフィール

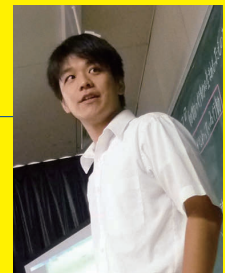
ひとりづくりからの地域づくりをテーマに、キャリアマネジメントからのアプローチによる創業・スタートアップ支援専門家。またUJIターンにおける、地方に拠点を置く企業やベンチャー企業に対する採用支援、起業支援、資金調達支援も、自治体や地元金融機関と共同して推進。政府・内閣官房より、日本初の就職関連分野における「地域活性化伝道師」に任命される。2017年7月、下関市・唐戸商店街に「創業支援カフェ KARASTA. (カラスト)」を開設し、代表兼インキュベーションマネージャーに就任。2018年9月、下関駅前・グリーンモール商店街に「空き店舗のマッチングステーション GRESTA. (グリスタ)」を開設。大分県立芸術文化短期大学 講師 (非常勤)。

●基調講演 (2)

「『探究する力』を育むには ~高等学校現場からのメッセージ~」

溝上 広樹 (熊本県立熊本北高等学校 教諭 / アクティブラーニング型授業研究会くまもと 代表)

授業づくりや組織づくりの原動力は、生徒達に学ぶことを楽しみながら力を伸ばし、自らを発揮しながらイキイキと生きて欲しいという願いです。そこで、探究学習が果たす役割の大きさを強く感じています。アクティブラーニング (AL) に取組む前は、ミニ課題研究を行っていました。その後、毎日の習得型の授業において、主体的に学びを深める方法を探る中で、ALに出会い、日々研究と実践を進めてきました。これから高校で探究活動が始まることを歓迎する一方で、円滑な実施については心配もしています。今回の登壇では、SSH校での経験も踏まえ、高校現場の状況をお伝えし、新しい教育を地域から作っていくキッカケになればありがたいです。



プロフィール

教員歴10年目で、現任校は2年目。大学院では、植物生理学の研究室において、昆虫学、生態学など複数の観点から昆虫・植物相互作用について独自に研究を行い、博士号 (理学) 取得。5年前にアクティブラーニング型授業研究会くまもとを立ち上げ (代表)、地元や全国の学びの仲間とともに日々授業研究を行っている。この成果は、授業づくりに反映させるとともに、日本生態学会誌など各種雑誌や国際会議 (IAEVG)、研修等で発表。校内ではSSH研究部と高大接続改革検討委員会に所属し、2ヶ月に1度の校内ワークショップを通して、現場における研究実践を進めている。生物部顧問として、生徒の探究活動を支援し、バイオ甲子園2018 優秀賞 (2位)、日本蝶類学会では「特別研究奨励賞」を受賞。

●事業成果報告・発信

「山口大学・大学教育再生加速プログラム (YU-AP) からのメッセージ」

林 透 (山口大学 大学教育機構 大学教育センター准教授)

2014年度に、文部科学省・大学教育再生加速プログラムに採択されて以降、本事業は5年間の歳月を経てきました。この5年間という月日を通して、大学教育を取り巻く環境は劇的に変化してきました。学内におけるアクティブ・ラーニング型授業の推進を起点とした、学生の「学びの好循環」を創出するだけでは不十分な時代となってきました。学習者の学びを第一に考えたとき、学習者の目が輝き、充実感に満たされるのは、学習した知識・技能が社会との接点で活かされたとき、評価されたときなのでないでしょうか。

今や、大学教育が提供する授業科目やカリキュラムは、高大接続・社会接続の観点から、多様なステークホルダーとの協働を通して育まれる必要が生じています。そんな時代の変化を踏まえながら、山口大学・大学教育再生加速プログラム (YU-AP) が目指す方向性や現在の成果を報告・発信します。



●SDGs カードによるワークショップ

ファシリテーター

中川 耕治 (学校法人 広島城北学園 広島城北中・高等学校 教頭)

カードゲーム「2030 SDGs」は「なぜSDGsが私たちの世界に必要なのか、そして「それが存在することによってどんな変化や可能性があるのか」を体験的に理解するためのゲームです。さまざまな価値観や違う目標を持つ人がいる世界で、我々はどうやって「誰も置き去りにしない」世界を実現していくのでしょうか。

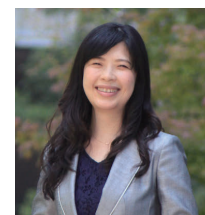
SDGsで描かれる2030年の世界から「今」を考えるとともに、「世界はつながっている」そして「私も起点」ということを感じてみましょう。



ファシリテーター

越 希美江 (Communication Lab. Beyond words 代表)

私は以前、市役所に勤務していました。担当していたのは、地域の救急医療施策。地域医療を維持するには、行政・病院・大学、そして市民、多様なステークホルダーとの協働が欠かせません。その時に教えて貰った言葉が、「協働とは、今日、どうって、言葉掛けができる関係性を作っていくことだ。」多様化社会の中、様々な価値観を持つ人々が関係性を築き協働して課題を解決するためには、どんなことが必要でしょうか。2030SDGsカードゲームから体感頂ければと思います。



山口大学 共育ワークショップ2019

『多様化社会において必要とされるコンピテンシーとは ～高大接続・社会接続の観点から～』開催報告

日 時：2019年3月14日（木）13：30～17：00

場 所：山口大学 大学会館2階会議室（吉田キャンパス）

参加者：68名（学内31名（教職員26名、大学生5名）、学外37名（教職員等33名、高校生4名））

主 催：山口大学・大学教育再生加速プログラム（YU-AP）

対 象：大学関係者（教職員・学生）、高等学校関係者（教員・生徒）、企業・行政関係者ほか

構 成：

13：30～13：40 開会挨拶・趣旨説明

山口大学理事・副学長（教育学生担当） 福田 隆眞

13：40～14：10 【基調講演（1）】

「『巻き込む力』を育むには ～企業家（起業家）からのメッセージ～」

株式会社ザメディアジョン・リージョナル代表取締役

内閣官房 地域活性化伝道師

北尾 洋二

14：10～14：40 【基調講演（2）】

「『探究する力』を育むには ～高等学校現場からのメッセージ～」

熊本県立熊本北高等学校 教諭

アクティブラーニング型授業研究会くまもと 代表 溝上 広樹

14：40～14：55 【事業成果報告・発信】

「山口大学・大学教育再生加速プログラム（YU-AP）からのメッセージ」

山口大学 大学教育機構 大学教育センター准教授

林 透

（休 憩）

15：05～16：50 【SDGs カードによるワークショップ】

「2030大学の授業と高等学校の授業ってどうなの？」

模擬授業担当教員×大学生×高校生

16：55～17：00 クロージング・閉会挨拶

山口大学 大学教育機構 大学教育センター長

菊政 勲

[総合司会・進行：山口大学 大学教育機構 大学教育センター准教授 林 透]

内 容：

2019年3月14日（木）午後、共育ワークショップ2019「多様化社会において必要とされるコンピテンシーとは ～高大接続・社会接続の観点から～」を山口大学大学会館2階会議室（吉田キャンパス）にて開催し、学内外から68名（学内31名（教職員26名、大学生5名）、学外37名（教職員等33名、高校生4名））が参加した。共育ワークショップは、大学教育センターが主催し、大学の教育（共育）について、学生、教職員が一緒になり、

様々な観点から語りあい、考えるというコンセプトで、2013年度から始まり、今年で6年目となる。今回は、昨年度の高等学校関係者(教員・生徒)を交えた取組から更に発展させ、大学関係者、高等学校関係者、企業・行政関係者が一緒になって、教育について考える場づくりを企画した。なお、本ワークショップは、山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)事業成果交流会として開催した。

はじめに、福田 隆真 理事・副学長(教育学生担当)より開会挨拶があり、昨今の多様化社会において、大学関係者同士だけでなく、高等学校関係者や企業・行政関係者を交えながら、次代を担う人材の育成のあり方等について対話する今回のワークショップへの期待が述べられた。

まず、株式会社ザメディアジョン・リージョナル代表取締役 北尾 洋二 氏より「『巻き込む力』を育むには ～企業家(起業家)からのメッセージ～」と題し、基調講演があった。冒頭、他人事を自分事にできることが大事であり、他人に責任を押し付けることなく、自分と他者との関係性を考えながら行動することの必要性を指摘した。さらに、社会の価値観が大きく変容し、流動化・先鋭化の時代の中で、自分自身の目的が明確であるとともに、従来の枠組を超えて戦略的に活動していく柔軟性が必要であると述べた。その中で、発信力・伝える力を身につけるとともに、いかに新しい価値を創造して期待感を醸成するかが、人を巻き込むために重要な事項であると述べた。そういう意味において、自己肯定感以上に、「自己有用感」を育むことが大切であると主張した。



次に、熊本北高等学校教諭 溝上 広樹 氏より「『探究する力』を育むには ～高等学校現場からのメッセージ～」と題し、基調講演があった。高等学校教諭として、授業改善を行う意味や課題研究を通じた生徒の深い学びに接してきた経験を紹介しながら、「探究心が高まる時はどんなときか」という問いをフロアに投げ掛けた。その後、高校生の生物科目での探究活動の事例を紹介しながら、「ミッション」「アイデンティティ」「信念」「コンピテンシー」「行動」「環境」のそれぞれのベクトルが一致すると、生徒の探究が進むことを「玉ねぎモデル」を基に解説した。さらに、テーマ設定の工夫として、ファシリテーショングラフィックを用いたアイデアの見える化や論文の輪読などを紹介した。最後に、校内研修の設計や熊本県内でのアクティブラーニング型授業研究会の活動を紹介した。

前半の最後として、山口大学 大学教育機構 大学教育センター 林 透より「山口大学・大学教育再生加速プログラム(YU-AP)からのメッセージ」と題し、事業成果報告があった。YU-AP 事業として



2018年度に取り組んできた内容を紹介するとともに、事業終了後に向けた今後の課題に言及した。また、採択時から5年の月日が流れ、大学教育を取り巻く環境が大きく変化する中で、2014～2016年度にかけて、学内体制・環境整備や学生参画型意識醸成に重点を置きながら事業のスタートアップや他機関への波及効果を進めてきたが、2017年度以降は高大接続による相互交流やチーム AP による採択校同士の連携に重点がシフトしてきた状況を説明した。その中で、共育ワークショップの意味付けも、従来の教職学協働を主眼としたものからステークホルダー協働を重視するものに変容しつつあると説明した。

後半の SDGs カードによるワークショップ「2030年多様化社会を見つめ、必要とされるコンピテンシーについて考えてみよう！」では、学校法人 広島城北学園 広島城北中・高等学校教頭 中川 耕治 氏、Communication Lab, Beyond words 代表 越 希美江 氏のファシリテーションのもと、SDGs カードゲームを繰り広げ、国連が定



めた持続可能社会のための 17 の目標の意味を理解し、2030 年に向けて自分たちが何をしなければならないのか、どのようなコンピテンシーを身につける必要があるのかについて考えた。高校生・大学生から大人まで幅広い職種と世代の交流を通して、各グループに課せられた目標の達成を目指して、参加者一同、真剣かつ楽しくゲームを体験した。参加者アンケートでは、「高校生、大学生の皆さんと一緒にワークは新鮮でした。また参加させていただきたいです。」「カードゲームは大変示唆に富むものでした。」といった感想が多く、大変好評であった。

最後に、菊政 勲 大学教育機構 大学教育センター長より閉会挨拶があり、基調講演やグループワークの要点を振り返りながら、外部講師の方々への労いの言葉があった。



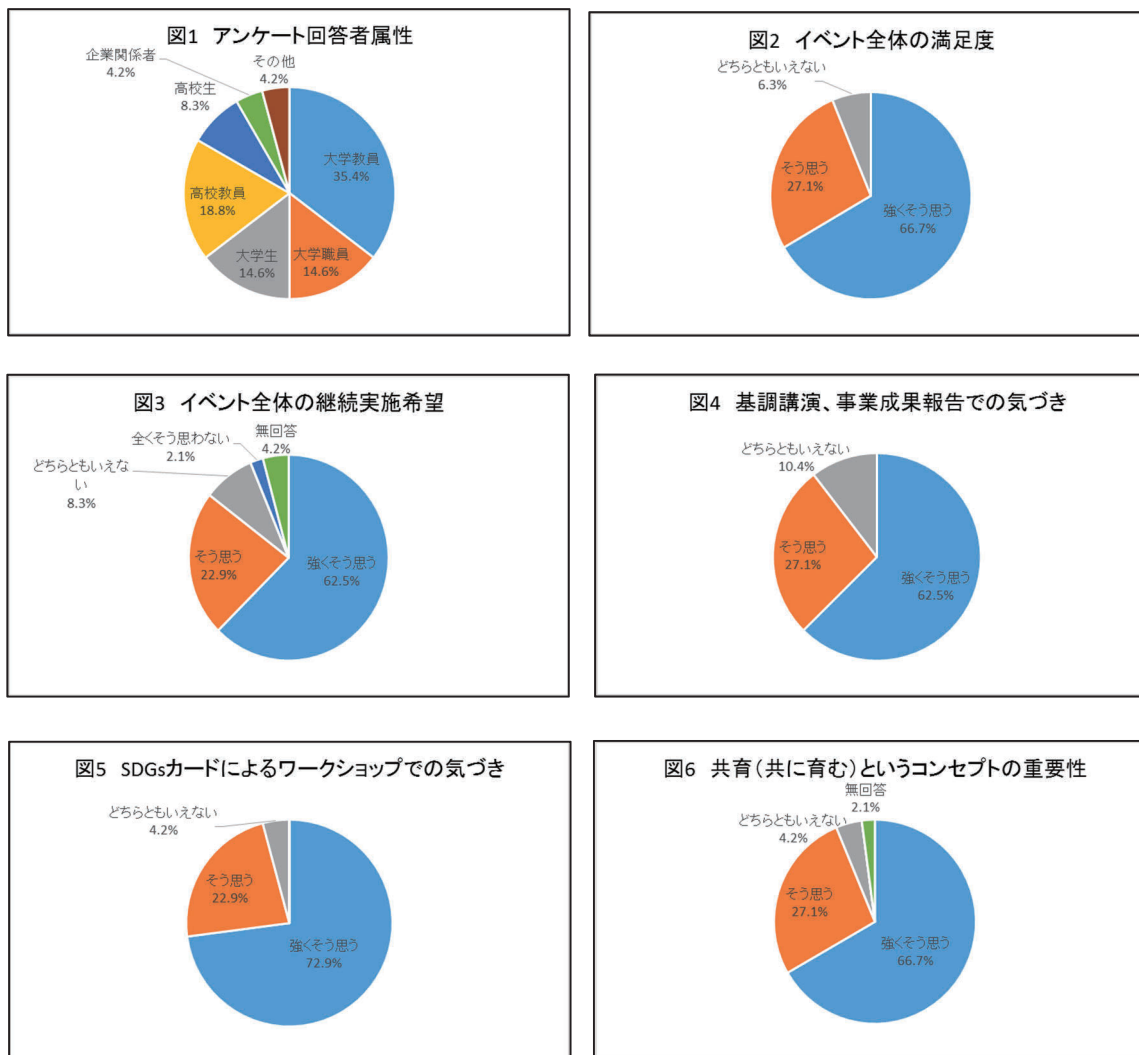
アンケート結果：

ワークショップ参加者によるアンケートについて、48名（回収率 70.6%）から回答を得た（図 1）。イベント全体の満足度については、「強くそう思う・そう思う」が 90%を超え（図 2）、今後も継続していくべきであるという意見が 85%を超える回答となった（図 3）。

前半の基調講演・事業成果報告、後半の SDGs カードによるワークショップを受講した参加者に新しい気づきがあったかという設問において、基調講演・事業成果報告では 90%近く（図 4）、SDGs カードによるワークショップでは 95%以上（図 5）の参加者が何らかの気づきがあったと回答しており、特に、SDGs カードによるワークショップを通じた新し

い気づきが非常に多かったことは、多様化社会を見つめ、考えるという趣旨を十分に達成できた成果である。また、共有ワークショップ自体のコンセプトへの理解に関する「共有（共にはぐくむ）というコンセプトは大切か」という設問では90%以上の賛同を得た（図6）。

以上、前半の基調講演・事業成果報告、後半のSDGsカードによるワークショップを通して、参加者が新たな気づきを得、全般的に満足度の高い機会となった。組織開発（OD）プログラムとしての共有ワークショップの有効性が改めて窺える結果となった。



まとめ：

山口大学憲章が掲げる「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」の創造を目指して、山口大学を構成する教員・職員・学生が理解を深め、共有することが求められている。今年度のワークショップでは、高大接続や社会接続をテーマに、各種企画に取り組んだ。山口大学・大学教育再生加速プログラムを中心に広がりつつある、アクティブラーニングや探究学習を通じた大学と高等学校の交流に加え、社会接続を意識しながら、企業関係者との関係性にチャレンジし、今回の共有ワークショップが生まれた。

この共有ワークショップという場は、山口大の組織力の向上、引いては、山口大の教育力の向上を図るための組織開発プログラムであるだけでなく、教員・職員・学生個々に気づき

を与え、新しいチャレンジ精神を培う人材育成の機能を果たすものである。さらに、今回は、高校教員や高校生、さらには企業関係者の参加者を得て、その輪を広げることができた。

今回のワークショップでの新たなアイデアや出会いを大切に、今後の山口大の教育課程・学習支援の充実、教職学協働の強化に一層努めていきたい。



※YU-AP第16回アドバイス会議として代替開催

山口大学・共育ワークショップ 2020



直接評価



間接評価

のチャレンジ

～どうすれば、学生の自己評価能力が高まるか～

2020

3.23 Mon
13:30-16:30

会場 山口大学共通教育棟 2階 26番教室
(吉田キャンパス)

対象：大学関係者、学校関係者ほかどなたでも参加可能(参加無料)

主催：山口大学・大学教育再生加速プログラム (YU-AP)

山口大学・大学教育再生加速プログラム (YU-AP) は、「①ALポイント認定制度によるアクティブ・ラーニング推進」「②直接評価×間接評価活用による学修成果可視化」「③教職協働による教育・学修環境充実」を進めるとともに、大学間連携・高大連携・社会連携を通して、成果発信・共有に取り組んできました。YU-AP 事業の最終年度に当たり、本事業目標の特徴の一つである「直接評価×間接評価活用による学修成果可視化」をテーマに、みんなで考えてみたいと思います。

なお、本イベントは、山口大学・大学教育再生加速プログラム (YU-AP) 事業成果交流会の一環として開催いたします。



●お問い合わせ

大学教育機構 大学教育センター (YU-AP 推進室)

TEL: 083-933-5261 E-mail: yuap@yamaguchi-u.ac.jp

13:30 開会挨拶・趣旨説明

13:40 基調講演

高等教育における直接評価×
間接評価のチャレンジ

～日・米・英における大学生調査など～

山田 礼子

同志社大学 社会学部 教授 (YU-AP アドバイザー)

14:10 山口大学の取組紹介①

知的財産教育科目における
学修評価と学修成果

～文部科学省教育関係共同利用拠点の成果～

木村 友久

山口大学知的財産センター長・教授

14:30 山口大学の取組紹介②

共同獣医学部の
学位プログラムの質保証

～アジア初、欧州獣医学教育認証取得への取組～

佐藤 晃一

山口大学共同獣医学部長・教授

14:50 山口大学の取組紹介③

大学教育再生加速プログラム
(YU-AP) における学修成果可視化

～山口大学生コンピテンシー、
YU CoB CuS を通して～

林 透

山口大学 大学教育機構 大学教育センター准教授

(休 憩)

15:20 実践的ワークショップ

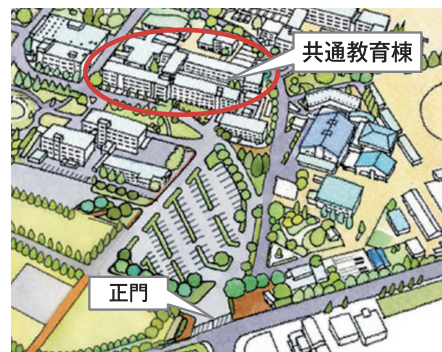
どうすれば、学生の
自己評価能力が高まるか

～直接評価×間接評価の活用に注目して～

斎藤 有吾

新潟大学 経営戦略本部 教育戦略統括室 准教授

16:20 クロージング・閉会挨拶



【お申込み方法】

3月18日(水)までに、
YU-APホームページの
「案内ページ」よりお申込ください。

<http://www.yuap.oue.yamaguchi-u.ac.jp/workshop2020>



山口大学 共育ワークショップ2020代替企画(第16回 YU-AP アドバイス会議)
『直接評価×間接評価のチャレンジ』
～どうすれば、学生の自己評価能力が高まるか～』開催報告

日 時：2020年3月23日（月）13：30～16：30

場 所：山口大学 共通教育棟2階会議室（吉田キャンパス）

主 催：山口大学・大学教育再生加速プログラム（YU-AP）

構 成：

13:30～13:35 開会挨拶 山口大学 理事・副学長（教育学生担当） 福田 隆真

【基調講演】

13:35～14:05 「高等教育における直接評価×間接評価のチャレンジ

～日・米・英における大学生調査など～

同志社大学 社会学部 教授（YU-AP アドバイザー） 山田 礼子

【取組紹介・話題提供】

14:05～14:35 「知的財産教育科目における学習評価と学習成果

～文部科学省教育関係共同利用拠点の成果～

山口大学 大学研究推進機構 知的財産センター長・教授 木村 友久

14:35～15:05 「大学教育再生加速プログラム（YU-AP）における学習成果可視化

～山口大学生コンピテンシー、YU CoB CuS を通して～

山口大学 大学教育機構 大学教育センター准教授 林 透

15:05～15:35 「どうすれば、学生の自己評価能力が高まるか

～直接評価×間接評価の活用に着目して～

新潟大学 経営戦略本部 教育戦略統括室 准教授 斎藤 有吾

（休 憩）

15:40～16:10 「共同獣医学部の学位プログラムの質保証

～全国初、欧州質保証機関認証の取組紹介～

山口大学共同獣医学部長・教授 佐藤 晃一

【意見交換】

16:10～16:30 意見交換・クロージング

閉会挨拶

山口大学 大学教育機構 大学教育センター長・教授 菊政 勲

内 容：

2020年3月23日（月）午後、共育ワークショップ2020「直接評価×間接評価のチャレンジ ～どうすれば、学生の自己評価能力が高まるか～」の代替企画をYU-AP第16回アドバイス会議として、山口大学 共通教育棟2階会議室（吉田キャンパス）にて開催した。当日は、登壇者、大学教育センター関係者、学生スタッフ計10名が参加した。今回は、YU-AP事業最終年度に当たり、本事業目標の特徴の一つである「直接評価×間接評価活用による学修成果可視化」をテーマに、これまでの取組を振り返り、今後に向けた課題等について考えてみることにした。

冒頭、福田 隆真 山口大学 理事・副学長（教育学生担当）より開会挨拶があり、YU-AP

事業協力への謝辞とともに、本企画が盛会となるよう期待する旨の言葉があった。

同志社大学社会学部教授（YU-AP アドバイザー） 山田 礼子 氏より「高等教育における直接評価×間接評価のチャレンジ ～日・米・英における大学生調査など～」と題し、基調講演があった。学習成果に関する直接評価と間接評価のモデルや国際動向について概説しながら、山田先生が長年関わってきた学生調査 JCIRP から見られる分析結果や日米韓による大学生調査を通じたクロス・ナショナル分析結果が紹介された。その後、直接評価と間接評価を統合した試行的取組を通して、直接評価による能力測定と間接評価との相関傾向が見られる事例の紹介があった。最後に、直接評価と間接評価から得られた学びの実態を一つの教育情報と捉え、実際に教育改善に結び付けていくための課題は何かとの問題提供があった。



山口大学 大学研究推進機構 知的財産センター長・教授 木村 友久 氏より「知的財産教育科目における学習評価と学習成果 ～文部科学省教育関係共同利用拠点の成果～」と題し、取組紹介があった。2013年度から取り組んできた知的財産教育科目の1年次全学必修化や知財展開科目の開設、さらには、大学院共通教育科目の開設に取り組み、2020年度には33科目の設置が完了するとのことであった。特に、1年次全学必修科目「科学技術と社会」では、毎年度の授業理解度や学生授業評価・教員自己評価などの結果を検証しながら、授業構成の統一化、e-learning 活用による意匠制度・商標制度の授業時間拡充などを授業改善を進め、受講生の知識理解度をアップしてきた取組が紹介された。その過程では、担当教員間によるFDを徹底しながら進めてきたことも紹介された。本学における授業科目レベルでの組織的な改善充実取組として、大いに参考にすべき事例である。これらの取組は、文部科学省・教育関係共同利用拠点の取組の一環として、他大学への波及・運用も進んでいるとのことであった。



山口大学 大学教育機構 大学教育センター准教授 林 透 氏より「大学教育再生加速プログラム（YU-AP）における学習成果可視化 ～山口大学生コンピテンシー、YU CoB CuSを通して～」と題し、取組紹介があった。YU-AP事業6年間での学修成果可視化の取組を振り返った後、「大学全体」レベルの取組として、学修行動・学修到達度調査による「山口大学生コンピテンシー」の可視化の自立化や1年生・3年生の経年比較結果などを説明した。また、「学位プログラム」レベルの取組として、YU CoB CuSの全学展開や学部教員インタビューなどを紹介し、国際総合科学部での学修成果のほか、国際総合科学部以外の学部の取組内容を説明した。さらには、これらの取組によって得られた学修成果に関するデータを活用し、高等学校や企業の関係者との対話の機会を設け、大学教育における学修成果そのものの相互確認などを行う取組を始めたことを紹介した。最後に、YU-AP事業を通して学修成果可視化の基盤づくりができたことを踏まえ、今後は、直接評価・間接評価の活用や学生の自己評価能力の向上に繋げていきたいということであった。



新潟大学 経営戦略本部 教育戦略統括室 准教授 齋藤 有吾 氏より「どうすれば、学生の自己評価能力が高まるか ～直接評価×間接評価の活用に着目して～」と題し、話題提供があった。最初に、参加している学生スタッフに向けて、大学教育を通してどのような資質・能力を身に付けようとしているのか、ということ問いかけながら、学修成果の意義や価値について説明を行った。さらに、直接評価は根拠やエビデンスを伴った評価であるが、間接評価は根拠が伴わない評価であるとの解説があった後、新潟大学歯学部



「大学学習法」の授業実践を取り上げ、学生自身が書いたレポートを基にした自己評価（直接評価）と教員による評価に関し、ルーブリックにおけるレベル間の差異を丁寧に説明し、振り返りを行うことで、学生の自己評価と教員評価のズレが縮まり、学生自身の自己評価能力が高まるとの説明があった。個々の授業科目における学生の自己評価やリフレクションが大事であると述べた。今回の企画テーマに関し、大変示唆に富んだ内容であった。

山口大学共同獣医学部長・教授 佐藤 晃一 氏より「共同獣医学部の学位プログラムの質保証 ～全国初、欧州質保証機関認証の取組紹介～」と題し、取組紹介があった。まず、共同獣医学部の設置と獣医学教育改善に関する 10 年間計画の概要について説明があった後、欧州獣医学教育認定機構 (The European Association of Establishments for Veterinary Education (EA EVE)) による国際認証に向けた教育課程や教育施設の改善充実の取組について詳細に紹介があった。また、共同獣医学部で学ぶ学生の学修成果として卒業時に身に付けておくべき獣医学スキルである Day One Competency やログ・ブックの運用について説明があった。さらには、学生やステークホルダーが関与した形での質保証の体制図について説明があり、これらの取組を通して、獣医学教育が確実に充実してきている実感を抱いているとの言葉があった。本学における学位プログラムレベルの質保証の手本となる取組であり、大いに参考となる内容であった。



最後に、菊政 勲 山口大学 大学教育機構 大学教育センター長より閉会挨拶があり、盛り沢山の内容で充実したものとなり、外部講師の方々への労いの言葉があった。

まとめ：

今回は、新型コロナウイルスの関係で、自由参加によるワークショップ形式での開催を中止にせざるを得ず、YU-AP 事業成果報告を兼ねたアドバイス会議という形式での開催となった。しかし、学修成果の把握や可視化という今日的に非常に大事なテーマについて、YU-AP アドバイザーである山田礼子先生による基調講演、YU-AP 事業に加え、本学が誇る知財教育や共同獣医学部の取組紹介、さらには、本学の学修成果可視化の基礎づくりに貢献した齋藤有吾先生による話題提供があり、相互に意見交換できたことは大変有意義であった。今回の機会を通して得られた知見を事業終了後の継続的取組の中で有効に活かしていきたい。

